

別記様式第1号の2

(用紙 日本産業規格A4縦型)

長浜バイオ大学収容定員関係学則変更届出書

2025年4月30日

文部科学大臣 殿

学校法人 関西文理総合学園
理事長 仁連 孝昭

このたび、長浜バイオ大学の収容定員に係る学則を変更することについて、学校教育法第4条第2項及び学校教育法施行令第23条の2第1項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

基本計画書

基本計画書											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更										
フリガナ設置者	ガッコウホウジン カンサイブンリソウゴウガクエン 学校法人 関西文理総合学園										
フリガナ大学の名称	ナガハマバイオダイガク 長浜バイオ大学 (Nagahama Institute of Bio-Science and Technology)										
大学本部の位置	滋賀県長浜市田村町1266番地										
大学の目的	<p>本学は、教育基本法および学校教育法に基づき、新時代に相応しい豊かな人間性と幅広い教養を涵養し、科学的合理性に富む最先端のバイオサイエンス専門技術の教育を行い、生命科学の時代と言われている21世紀において、時代を切り開く視野と創造性、高いバイオサイエンスの専門知識と技術力を身に付けた人材を養成することと、世界トップレベルのバイオサイエンス研究を行い、学術文化の発展に寄与すること、および、地域社会の発展や産業の振興、国際交流の発展に貢献することを目的とする。</p>										
新設学部等の目的	<p>昨今の18歳人口減少の影響を受け、ここ数年入学希望者が減少して定員を充足できていない状況である。本学志願者のニーズを充たし、大学全体として教育の質的充実を実現するため、入学定員数、編入学定員数を減員し、収容定員の規模を適正化する。</p>										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	バイオサイエンス学部	年	人	年次人	人			年月第年次			
	フロンティアバイオサイエンス学科	4	95 (118)	— (4)	380 (480)	学士(バイオサイエンス)	理学関係	令和8年4月 第1年次	滋賀県長浜市田村町1266		
	バイオデータサイエンス学科	4	35 (70)	—	140 (280)	学士(バイオサイエンス)	理学関係	令和8年4月 第1年次	同上		
	計		130 (188)	— (4)	520 (760)						
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	—										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計	単位					
		科目	科目	科目	科目						
学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)				
	教授	准教授	講師	助教	計						
新設	バイオサイエンス学部	10 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (19)	1 (1)	5 (5)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人		
	フロンティアバイオサイエンス学科	10 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (19)					
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (19)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計(a~b)	10 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (19)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計(a~d)	10 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (19)					
	設	バイオサイエンス学部	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)		5 (5)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	バイオデータサイエンス学科	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)					
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)						
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計(a~b)	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計(a~d)	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)						
分	計	19 (20)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	31 (32)	1 (1)	10 (10)			

既 設 分	バイオサイエンス学部 アニマルバイオサイエンス学科		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	5 (3)	大学設置基準別表第一 に定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
合 計		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)			5 (3)
職 種		専 属			そ の 他			計		
事 務 職 員		32 (32)			0 (0)			32 (32)		
技 術 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
図 書 館 職 員		2 (2)			0 (0)			2 (2)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計										
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	19,540.72㎡	0.00㎡		0.00㎡		19,540.72㎡			
	そ の 他	33,742.08㎡	0.00㎡		0.00㎡		33,742.08㎡			
	合 計	53,282.80㎡	0.00㎡		0.00㎡		53,282.80㎡			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
		19,793.75㎡ (19,793.75㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)		0.00㎡ (0.00㎡)		19,793.75㎡ (19,793.75㎡)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	室		教 員 研 究 室		室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点			
		()	()	()	()	()	()			
	計	()	()	()	()	()	()			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設				
		㎡		㎡		㎡				

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	電子ジャーナル含む
		教員1人当り研究費等	500千円	500千円	500千円	500千円	—千円	—千円	
		共同研究費等	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	28,000千円	28,000千円	28,000千円	28,000千円	—千円	—千円	
	設備購入費	70,000千円	70,000千円	70,000千円	70,000千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、手数料収入、寄付金収入								
既設大学等の状況	大学等の名称								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	バイオサイエンス学部	4	118	3年次	480	学士(バイオサイエンス)	0.66	平成31年度	滋賀県長浜市田村町1266
	フロンティアバイオサイエンス学科	4	50	—	200	学士(バイオサイエンス)	1.10	平成21年度	
アニマルバイオサイエンス学科	4	70	—	280	学士(バイオサイエンス)	0.42	平成31年度		
バイオデータサイエンス学科									
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

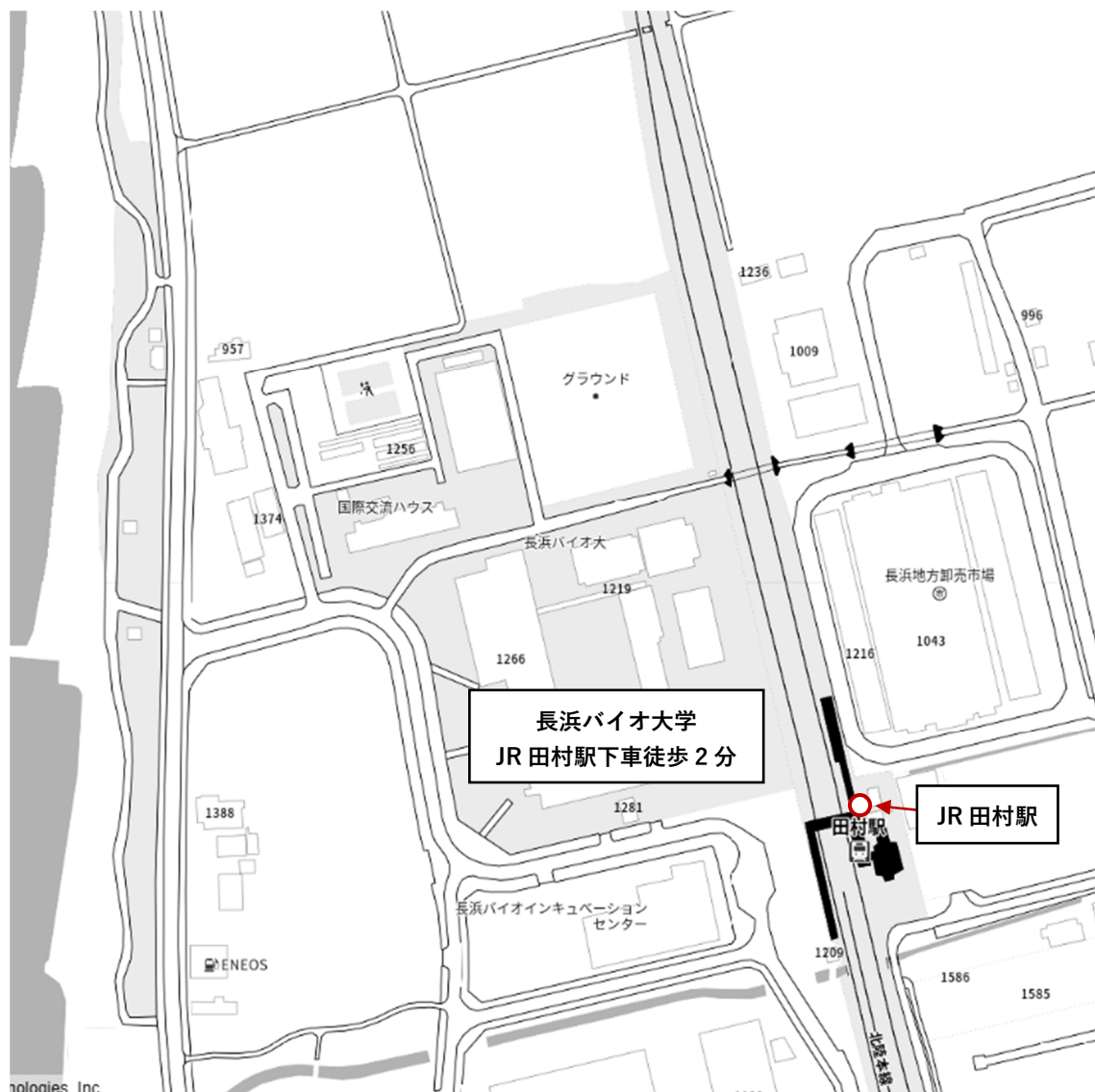
学校法人関西文理総合学園 設置認可等に関わる組織の移行表

	入学 定員	編入学 定員 3年次	収容 定員		入学 定員	編入学 定員 3年次	収容 定員	変更の事由
令和7年度				令和8年度				
長浜バイオ大学				長浜バイオ大学				
バイオサイエンス学部				バイオサイエンス学部				
フロンティアバイオ サイエンス学科	118	4	480	フロンティアバイオ サイエンス学科	<u>95</u>	<u>—</u>	<u>380</u>	定員変更 (△27)
アニマルバイオ サイエンス学科	50	—	200	アニマルバイオ サイエンス学科	50	—	200	
バイオデータ サイエンス学科	70	—	280	バイオデータ サイエンス学科	<u>35</u>	—	<u>140</u>	定員変更 (△35)
計	238	4	960	計	<u>180</u>	<u>—</u>	<u>720</u>	
長浜バイオ大学大学院				長浜バイオ大学大学院				
バイオサイエンス研究科				バイオサイエンス研究科				
博士課程前期課程 (M)	36	—	72	博士課程前期課程 (M)	36	—	72	
博士課程後期課程 (D)	5	—	15	博士課程後期課程 (D)	5	—	15	
計	41	—	87	計	41	—	87	

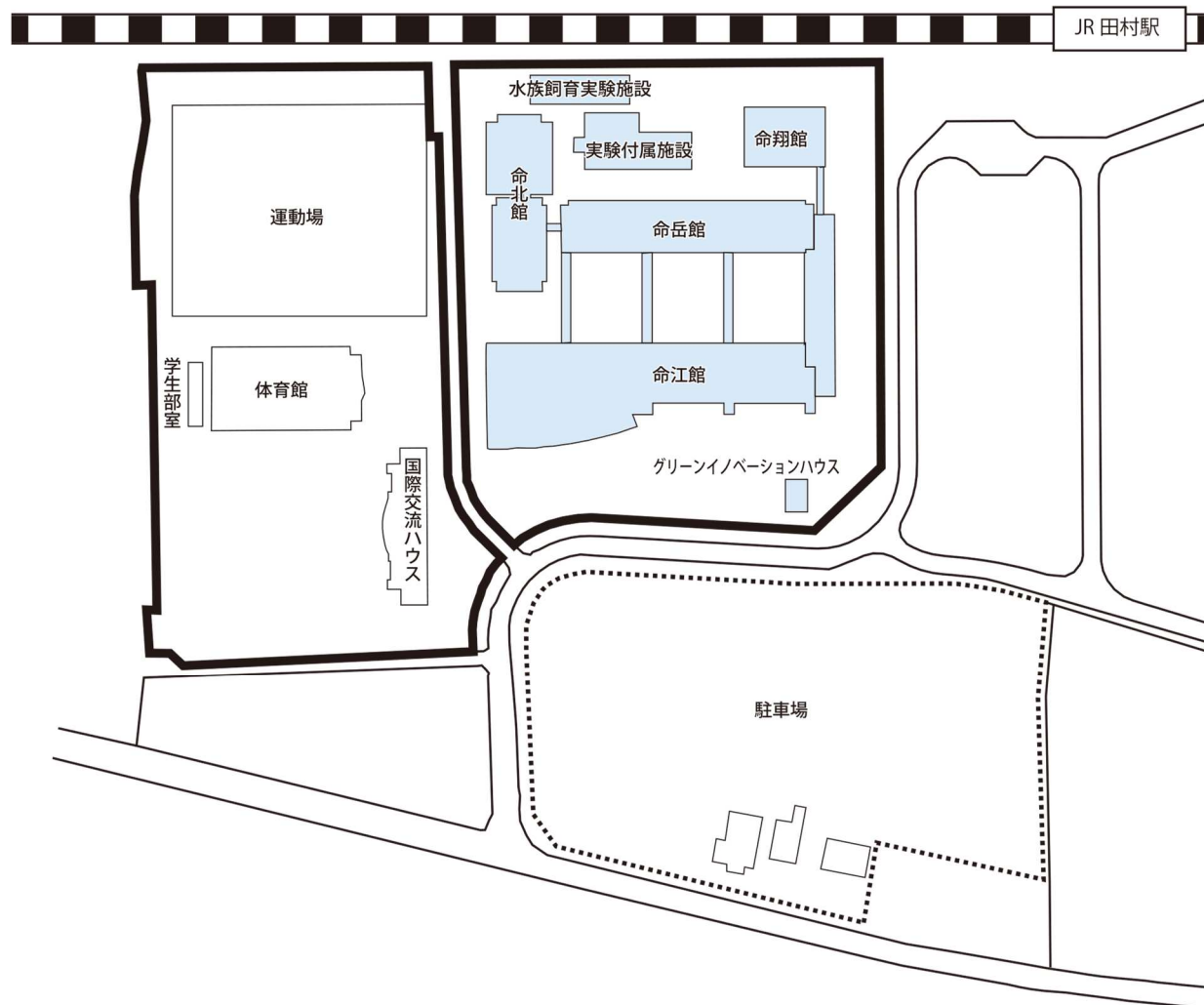
都道府県内における位置関係の図面



最寄り駅からの距離、交通機関が分かる図面



校舎・運動場等の配置図



校地等面積合計 53,282.80 m²

校舎面積合計 19,793.75 m²

命江館・命岳館 12,262.22 m²

命北館 4,876.23 m²

命翔館 1,380.90 m²

実験付属施設 465.56 m²

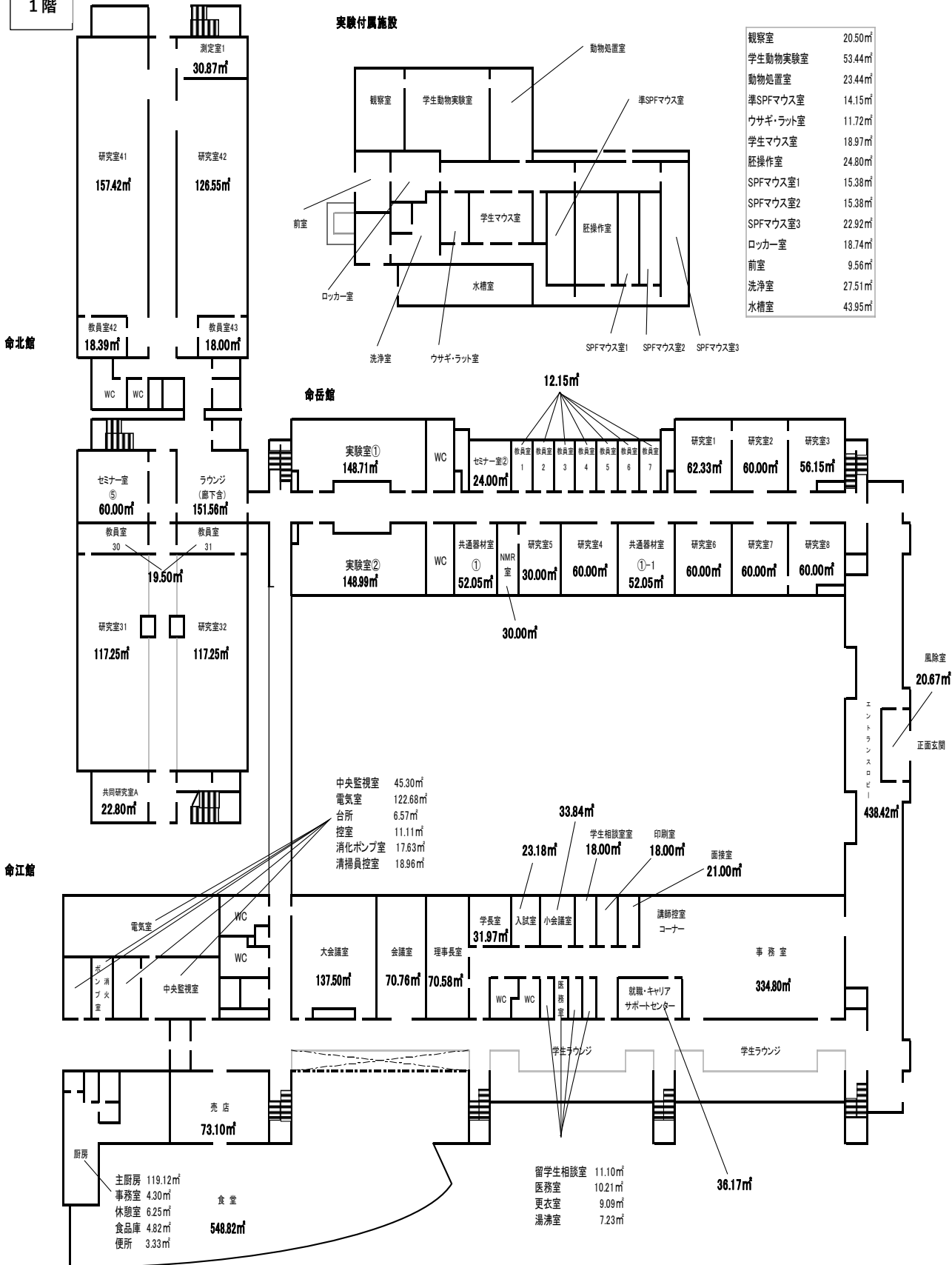
グリーンイノベーションハウス 53.26 m²

水族飼育実験施設 253.03 m²

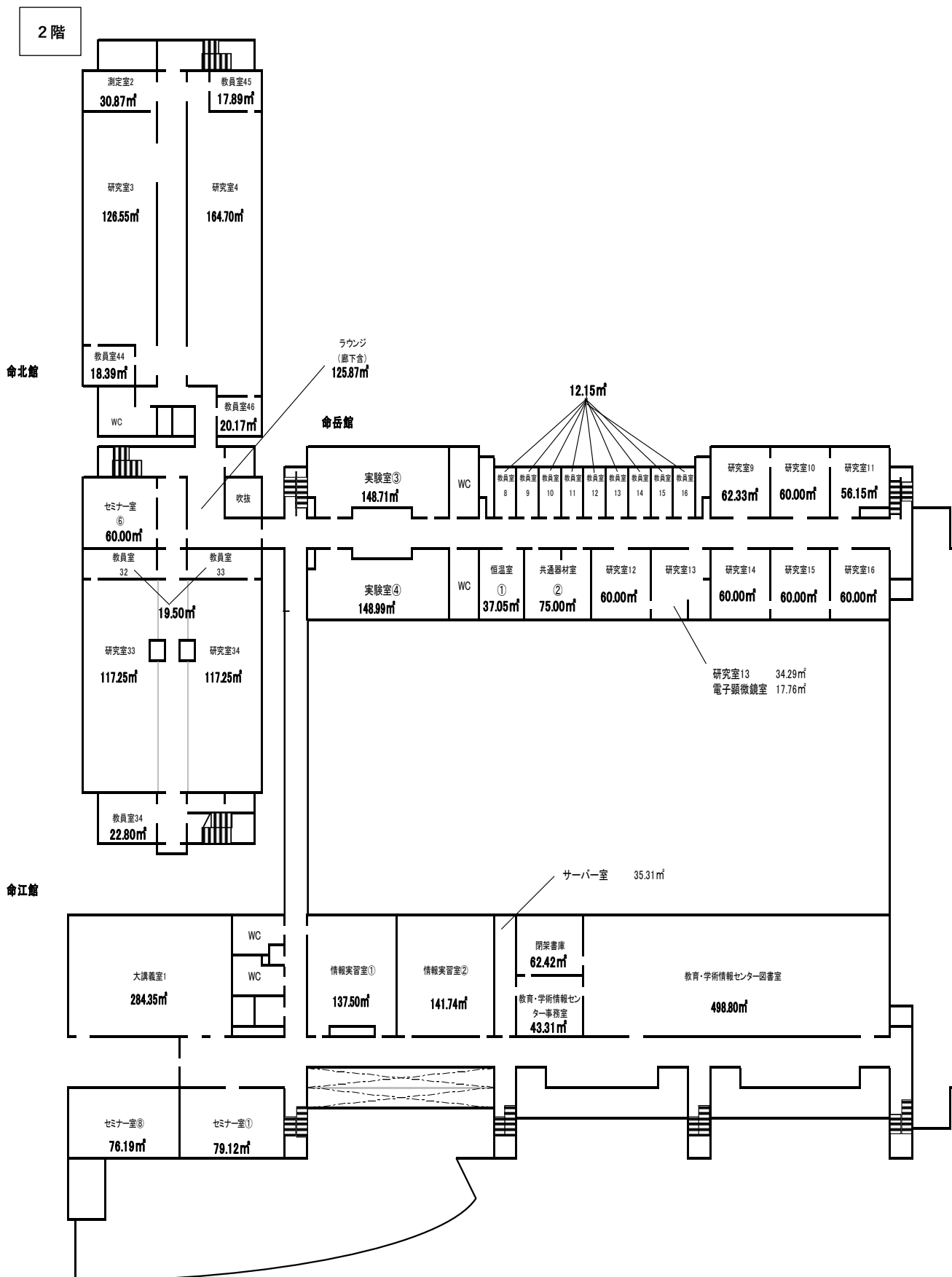
その他（渡り廊下） 502.55 m²

校舎の平面図

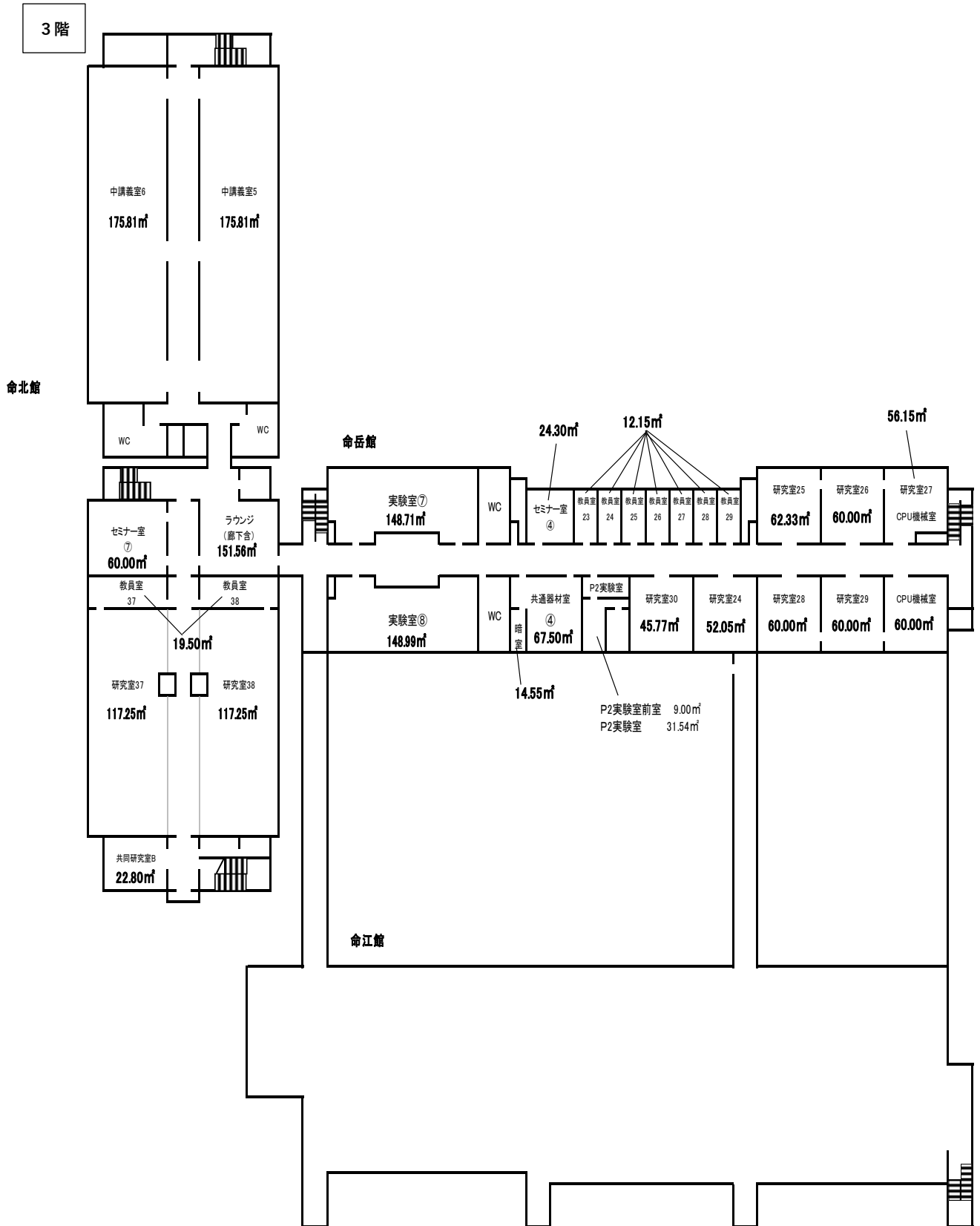
1階



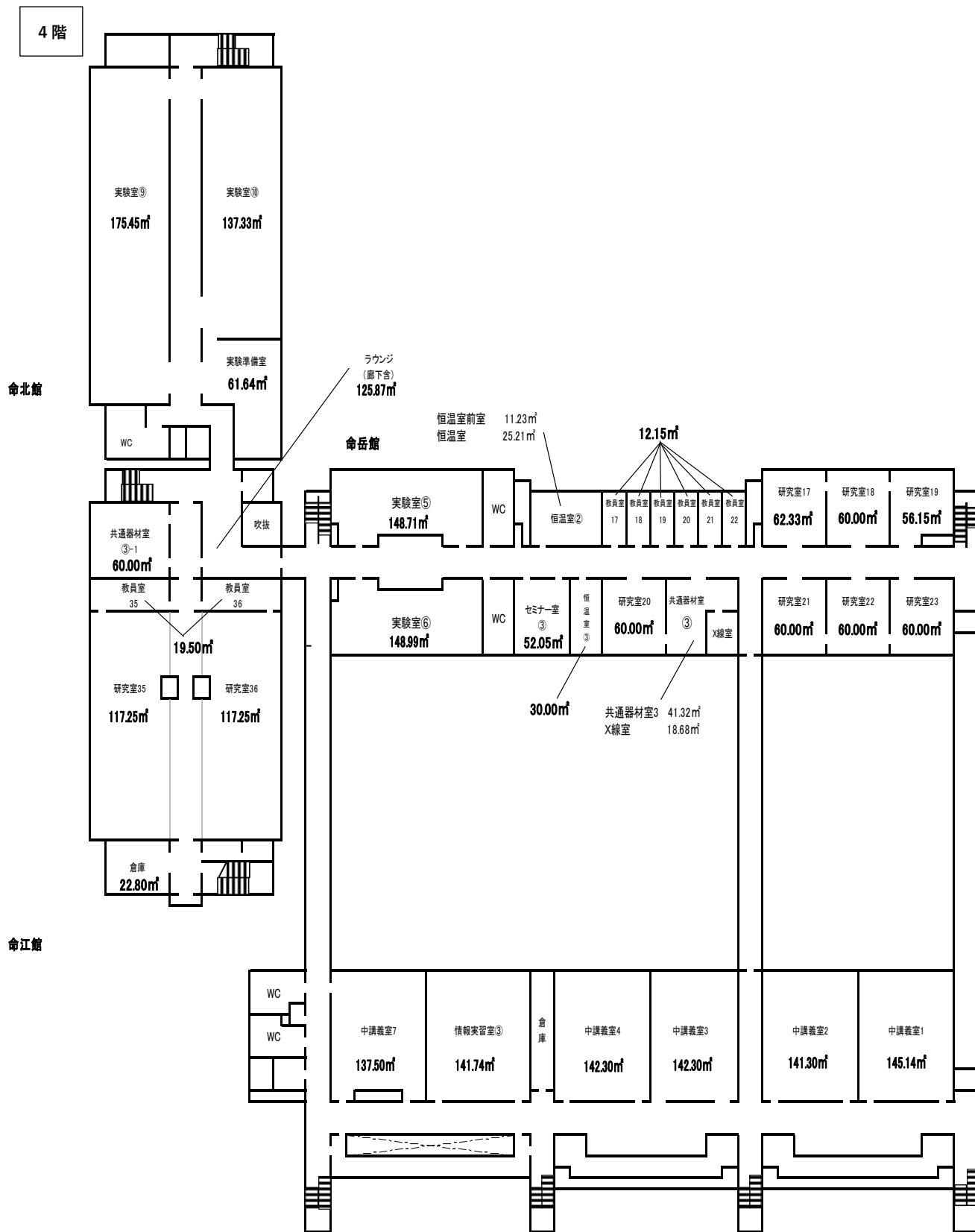
校舎の平面図



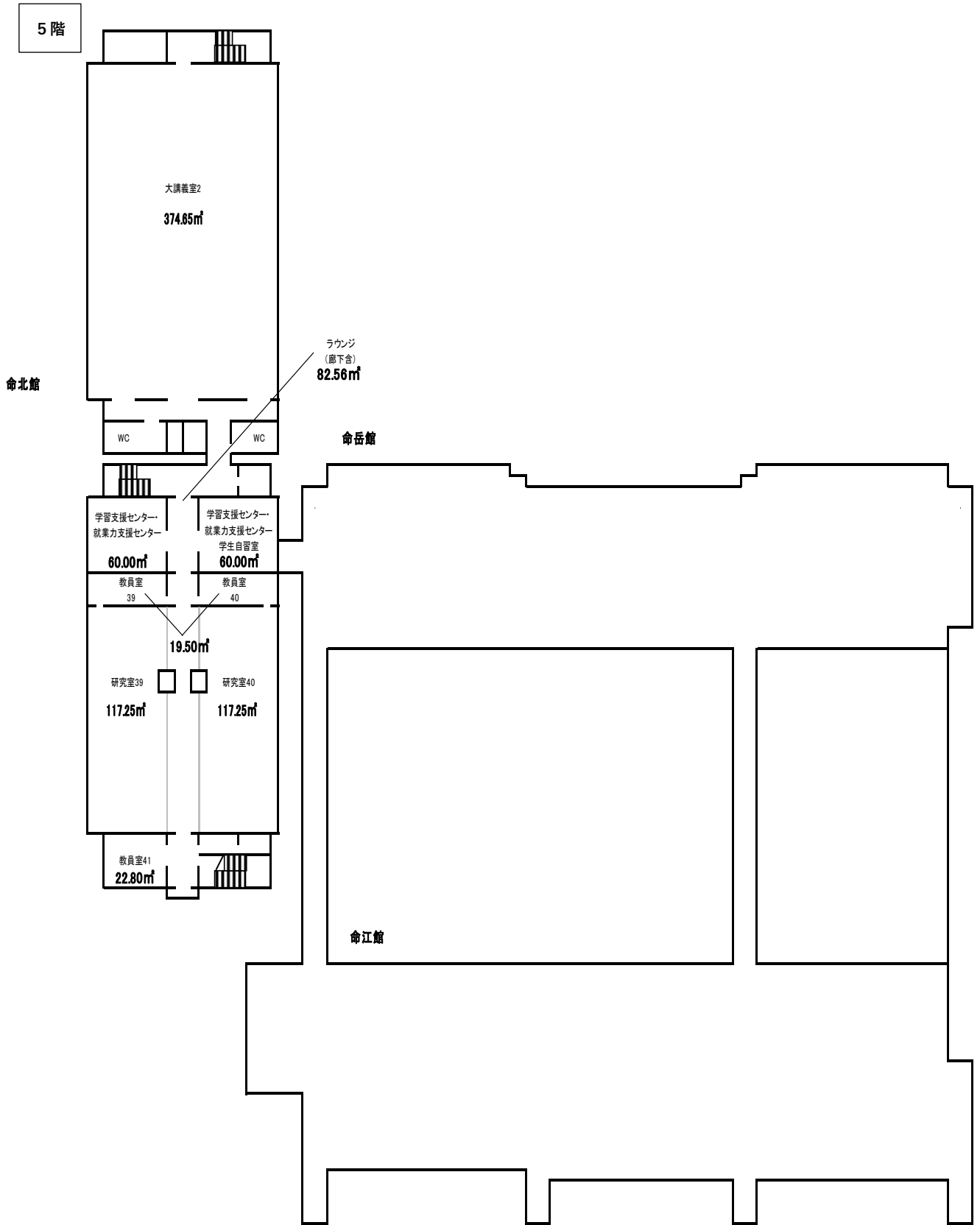
校舎の平面図



校舎の平面図



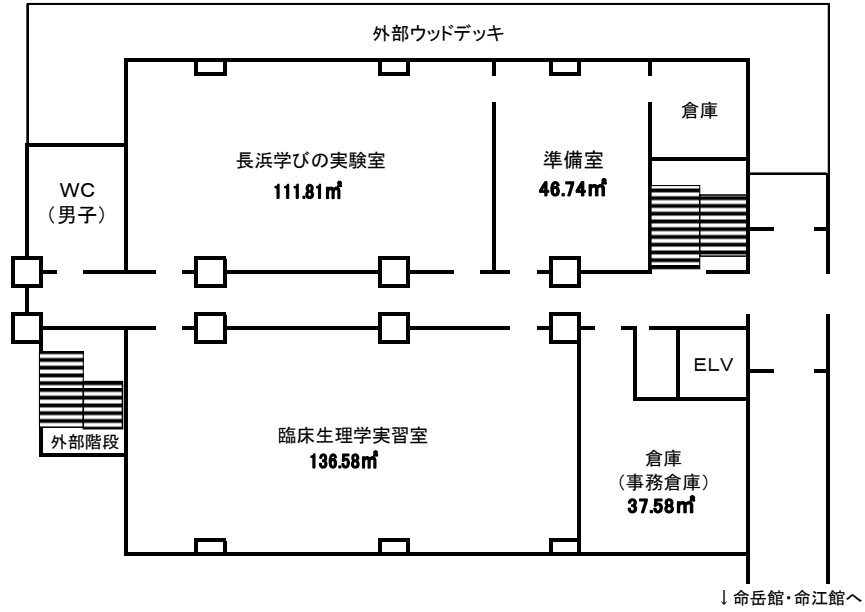
校舎の平面図



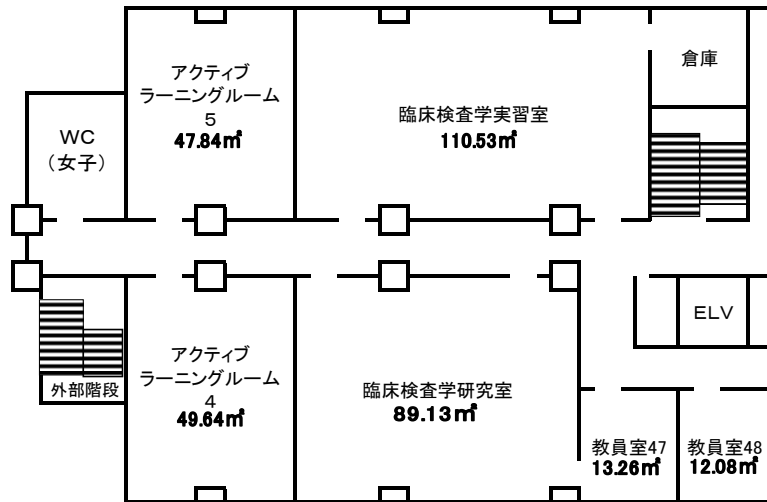
校舎の平面図

命翔館

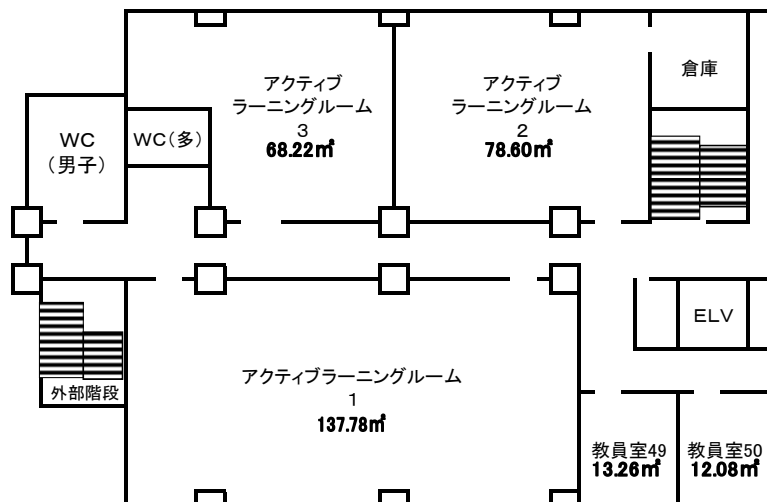
1階



2階



3階



(附属図書館)

- 第5条 本学に、図書館を置く。
2 図書館に関する規程は、別に定める。

第4節 職員組織

(学長・副学長)

- 第6条 本学に学長を置く。
2 本学に副学長を置くことができる。
3 学長は、本学の教学に関する事項を統括し、副学長は学長の職務を全般的に補佐する。
4 学長及び副学長の選考、任期その他必要な事項は、別に定める。

(職員)

- 第7条 本学に教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員およびその他の職員を置く。

(学部長)

- 第8条 学部に学部長を置き、当該学部の教授をもって充てる。
2 学部長は、学部の教学に関する事項を統括する。
3 学部長の選考、任期その他必要な事項は、別に定める。

(学科長)

- 第8条の2 学科に学科長を置き、当該学科の教授をもって充てる。
2 学科長は、学科の教学に関する事項を統括する。
3 学科長の選考、任期その他必要な事項は、別に定める。

(名誉教授)

- 第9条 本学に、名誉教授を置くことができる。
2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(客員教員等)

- 第10条 本学に客員教員および客員研究員を置くことができる。
2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 教授会

(教授会)

- 第11条 本学の学部に教授会を置く。
2 教授会は、学部に所属する教授、准教授、および講師をもって構成する。ただし、教授会が必要と認めるときは、その他の職員を加えることができる。
3 教授会は、学部長がこれを招集し、議長となる。
4 学長は、必要と認めるとき、教授会の招集を要請し、または教授会に出席して発言することができる。
5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1) 学生の入学と卒業および課程の修了に関すること
(2) 学位の授与に関すること
(3) 教育課程、授業、学力考査および単位の認定に関すること
(4) 教員の任用および昇任に関すること
(5) 学生の指導および賞罰に関すること
(6) 第(1)号～第(5)号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授

会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

- 6 教授会は前項に規定するもののほか、学長および学部長（以下「学長等」という）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 7 教授会の運営等に必要な事項は、別に定める。

（専門委員会）

第11条の2 教学、成績評価、研究、組織、学生指導に係る専門委員会を設置する。

- 2 教授会は、その定めるところにより、専門委員会の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

第6節 学年、学期および休業日

（学年）

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（学期）

第13条 学年を原則として次の2学期に分ける。

- | | |
|---------|------------------|
| 前期（春学期） | 4月1日から9月30日まで |
| 後期（秋学期） | 10月1日から翌年3月31日まで |

（休業日）

第14条 本学の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日および土曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 創立記念日（12月19日）
 - (4) ユネスコ無形文化遺産：長浜曳山祭（4月15日）
 - (5) 学長が必要と認めるときは、教授会の審議を経て前各号の休業日のほかに休業の日を定めることができる。
- 2 学長は必要がある場合は、前項の休業日を変更し、もしくは臨時に休業し、または休業日における授業等を行わせることができる。

第2章 通則

第1節 修業年限および在学年限

（修業年限）

第15条 修業年限は、4年とする。

（在学年限）

第16条 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、編入学、転入学および再入学したものにあっては、それぞれ在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

第2節 入学

（入学の時期）

第17条 入学の時期は、学年の初めとする。ただし、特別の事情がある場合は、学期の初めとすることができる。

（入学資格）

第 18 条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者または通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者またこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (7) その他相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

(入学の出願)

第 19 条 本学に入学を志願する者は、所定の期日までに入学願書、その他別に定める書類を提出するとともに、入学検定料を納入しなければならない。

- 2 一旦納入された入学検定料は返還しない。

(入学者の選考)

第 20 条 入学者の選考は、別に定めるところにより行う。

(入学手続および入学許可)

第 21 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学申込手続書類を提出し、所定の入学金および学費を納付しなければならない。入学の手続については別に定める。

- 2 前項の入学手続を完了した者については、教授会の審議を経て、学長が入学を許可する。

(編入学)

第 22 条 本学に編入学を志願する者については、選考の上、学長は 3 年次に入学を許可することができる。

- 2 前項により入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 他の大学を卒業した者
 - (2) 大学に 2 年以上在学し、60 単位以上修得した者
 - (3) 短期大学または高等専門学校を卒業した者
 - (4) 専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第 5 6 条に規定する者に限る。）

(転入学)

第 23 条 他の大学に在籍している者で本学に転入学を志願する者については、選考の上、学長は相当年次に入学を許可することができる。

(転学科)

第 23 条の 2 本学の他の学科に転学科を希望する者については、選考の上、教授会の審議を経て、学長は 2 年次または 3 年次に入学を許可することができる。

- 2 転学科に関する取り扱いについては、別に定める。

(再入学)

第 24 条 本学を卒業または退学した者で、本学に再入学を志願する者があるときは、選考

の上、教授会の審議を経て、学長は相当年次に入学を許可することがある。

(編入学等の場合の取扱い)

第 25 条 前 3 条の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目および修得した単位数の取扱いならびに在学すべき年数については、教授会の審議を経て学長が決定する。

第 3 節 授業科目および履修方法等

(授業科目)

第 26 条 授業科目および単位は、別表のとおりとする。

- 2 学長が必要と認めた場合には、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 前項の授業方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。
- 4 別表に掲げる授業科目のほか、教授会の審議を経て学長が教育上必要であると認めるときは、別に他の授業科目を設けることができる。

(単位計算方法)

第 27 条 各授業科目の単位数は、1 単位を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義および演習については、15 時間ないし 30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 実験、実習および実技については、30 時間ないし 45 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる場合には、教授会の審議を経て学長が単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第 28 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(年間履修単位数)

第 28 条の 2 年間履修単位数の制限については、別に定める。

(履修方法および修得単位数)

第 29 条 卒業の認定を受けるために必要な単位数は以下のとおりとする。

- (1) フロンティアバイオサイエンス学科 1 2 8 単位以上
- (2) アニマルバイオサイエンス学科 1 2 8 単位以上
- (3) バイオデータサイエンス学科 1 2 8 単位以上
- 2 授業科目等の学修にあたっては、「長浜バイオ大学バイオサイエンス学部履修規程」に定めるところに従い履修すること。

(他大学等における授業科目の履修等)

第 30 条 本学が教育上有益と認めるときは、教授会の審議を経て、学長は他大学または短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学または短期大学の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により修得した単位については、60 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得した単位とみなすことができる。
- 3 前 2 項の規定は、学生が外国の大学または短期大学に留学した場合に準用する。
- 4 第 2 項による科目の取り扱い、単位認定等については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

- 第 31 条** 本学が教育上有益と認めるときは、教授会の審議を経て、学長は学生が行う短期大学または高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 2 前項により与えることができる単位数は、前条により修得したとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第 32 条** 本学が教育上有益と認めるときは、教授会の審議を経て、学長は学生が本学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を与えることができる。
- 2 学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前 2 項の規定により与えることができる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 30 条第 1 項および第 3 項ならびに前条第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(成績の評価)

- 第 33 条** 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C および D をもって表し、S、A、B、および C を合格とし、D を不合格とする。ただし、評点を付さない授業科目については、合格、不合格をもって表す。

(進 級)

- 第 33 条の 2** 各年次の進級要件を設け、これを満たさない場合は留年とする。
- 2 進級要件に関する規程については、別に定める。
- 3 進級、留年の決定については、教授会の審議を経て、学長が行う。

第 4 節 休学・転学・留学および退学

(休 学)

- 第 34 条** 病気その他やむをえない事由により引き続き 2 か月以上修学することができない者は、所定の手続の上、休学することができる。
- 2 病気のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。
- 3 休学に関する取り扱いについては、別に定める。

(転 学)

- 第 35 条** 他の大学等への入学または転入学を志願する者は、学長の許可を受けなければならない。
- 2 転学に関する取り扱いについては、別に定める。

(留 学)

- 第 36 条** 外国の大学等に留学することを志願する者は、学長の許可を受けなければならない。
- 2 留学に関する取り扱いについては、別に定める。

(退 学)

- 第 37 条** 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

2 退学に関する取り扱いについては、別に定める。

(除 籍)

第 38 条 次のいずれかに該当する者については、学長は除籍することができる。

- (1) 授業料その他の学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第 16 条に定める在学年限を超えた者
- (3) 休学期間の通算限度を超えて、なお復学できない者
- (4) 死亡した者または 2 年以上にわたり行方不明の者

第 5 節 卒業、学位および資格

(卒 業)

第 39 条 本学に 4 年（第 22 条から 24 条までの規定により入学した者にあつては、第 25 条の規定により定められた在学すべき年数）以上在学して、第 29 条に定める単位を修得した者については、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。

(学 位)

第 40 条 卒業した者には、次の学士の学位を授与する。

学士（バイオサイエンス）

第 6 節 賞罰

(表 彰)

第 41 条 本学の目的および使命に則り、他の学生の模範となる行為のあった学生に対し、学長は表彰することができる。

(懲 戒)

第 42 条 本学の学則その他の規程に違反し、または本学学生としての本分に反する行為をした者については、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、訓告、停学および退学とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
- 4 懲戒に関する取扱いについては、別に定める

第 7 節 福利厚生施設

第 43 条 本学に、学生の福利厚生を図るため、外国人留学生居住施設、医務室その他の施設を置く。

第 3 章 補 則

第 1 節 研究生、研修員、科目等履修生、聴講生および外国人留学生

(研究生)

第 44 条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者がある時は、本学の教育研究に支障のない場合に限り、教授会の審議を経て、学長は研究生として受け入れることができる。

2 研究生に関する規程は、別に定める。

(研修員)

第 45 条 本学において、官公庁、学校その他の機関から、その所属する職員に特定の専門事項について研究・研修させるための委託があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、教授会の審議を経て、学長は研修員として受け入れることができる。

2 研修員に関する規程は、別に定める。

(科目等履修生)

第 46 条 本学の学生以外の者で、本学の特定科目を履修し、その単位の修得を希望する者がある時は、本学教育に支障のない場合に限り、教授会の審議を経て、学長は科目等履修生として許可することができる。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

(特別科目等履修生)

第 47 条 本学のフロンティアバイオサイエンス学科臨床検査学コースに在籍し卒業した者で、臨床検査技師国家試験受験を目指すため、「臨床検査技師国家試験受験資格要件科目」の履修を希望する場合は、本学教育に支障のない場合に限り、教授会の審議を経て、学長は特別科目等履修生として許可することができる。

2 特別科目等履修生に関する規程は、別に定める。

(聴講生)

第 48 条 本学の学生以外の者で、本学の特定科目を聴講することを志願する者がある時は、教授会の審議を経て、学長は聴講生として許可することができる。

2 聴講生に関する規程は、別に定める。

(特別聴講生)

第 49 条 他の大学等との協定に基づき、本学の科目を履修し、その単位の修得を希望する者がある場合、教授会の審議を経て、学長は、特別聴講生として受け入れを許可することができる。

2 特別聴講生に関する規程は、別に定める。

(外国人留学生)

第 50 条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者がある時は教授会の審議を経て、学長は入学許可または受け入れをすることができる。

2 外国人留学生に関する規程は、別に定める。

第 2 節 入学料、授業料およびその他の学費

(入学料)

第 51 条 入学を許可された者は、所定の期日までに入学料を納めなければならない。

2 前項の入学料を納めない時は、入学の許可を取り消すことができる。

3 入学料に関する規程は、別に定める。

(授業料等)

第 52 条 授業料等は、所定期日までに納めなければならない。

2 授業料等に関する規程は、別に定める。

第 3 節 奨学制度

(奨学制度)

第 53 条 本学に奨学生制度を設け、学業、人物ともに優秀な者に奨学金を支給する。
2 前項の制度に関する取り扱いは、別に定める。

第 4 節 付属研究所 (付属研究所)

第 54 条 本学に次の付属研究所を置く。
(1) ゲノム編集研究所

第 4 章 改廃規定

(改 廃)

第 55 条 本学則の改廃は、教授会の審議を経て、理事会の承認により行う。

附 則

この学則は、2003 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2006 年 12 月 12 日に改正し、2007 年 4 月 1 日から施行する。(第 7 条、第 11 条)

附 則

この学則は、2007 年 2 月 9 日に改正し、2007 年 4 月 1 日から施行する。(第 26 条、第 29 条、第 30 条、第 48 条、第 49 条、第 50 条、第 51 条、第 52 条、第 53 条)
ただし、環びわ湖単位互換制度に伴う特別聴講生に関する規程は 2006 年度受け入れ学生より適用する。また、別表に掲載する「文学」および「経済学」は 2006 年度入学生より、「現代の政治と社会」、「英語Ⅲ」および「英語Ⅳ」は 2005 年度入学生よりそれぞれ適用する。また、「特殊講義(単位互換)」は 2003 年度入学生より自由選択科目として、「特殊講義(編入学)」は 2009 年度編入学者よりそれぞれ適用する。

附 則

この学則は、2008 年 3 月 5 日に改正し、2008 年 4 月 1 日から施行する。(第 1 条)

附 則

1 この学則は、2008 年 5 月 29 日に改正し、2009 年 4 月 1 日から施行する。(第 3 条、第 4 条、第 23 条の 2、第 29 条、別表)
2 この学則は、第 42 回理事会(2009 年 3 月 26 日)の審議を経て、2009 年 4 月 1 日に改正し、即日施行する。(第 8 条の 2 追加)

附 則

この学則は、2011 年 2 月 25 日に改正し、2011 年 4 月 1 日から施行する。(第 4 条の 2、第 11 条の 2、第 26 条第 3 項、第 28 条の 2、第 29 条、第 33 条の 2、第 38 条第 2 号)

附 則

この学則は、2013 年 2 月 26 日に改正し、2013 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2014 年 2 月 25 日に改正し、2014 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 4 条、第 26 条、第 29 条、第 33 条は 2014 年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、2014年10月21日に改正し、2015年4月1日から施行する。(第11条他改正)

附 則

この学則は、2015年2月24日に改正し、2015年4月1日から施行する。(第29条、別表改正)

附 則

この学則は、2015年7月28日に改正し、2016年4月1日から施行する。(第4条改正)

附 則

この学則は、2016年2月23日に改正し、2016年4月1日入学生から適用する。(別表改正) 但し、「おうみ学生未来塾」に関しては2015年度以前入学生にも適用する。

附 則

この学則は、2017年2月28日に改正し、2017年4月1日入学生から適用する(第13条、第14条、第29条、第38条、別表改正)。但し、第13条、第14条、第38条の改正、別表の「海外英語研修」「バイオ産業論」に関しては2016年度以前入学生にも適用する。

附 則

1 この学則は、2018年3月28日に改正し、2019年4月1日より施行する。(第3条、第4条、第26条別表、第29条第1項)

ただし、この学則施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

2 第3条、第4条、第29条第1項に関わらず、バイオサイエンス学科、コンピュータバイオサイエンス学科は、当該学科に2019年3月31日に在籍する学生が在籍しなくなるまでの間存続するものとする。

附 則

1 この学則は、2019年2月26日に改正し、2019年4月1日より施行する。(第26条別表) ただし、この学則施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

2 別表の「生産管理システム」に関しては2019年度以前入学生にも適用する。

附 則

この学則は、2019年7月30日に改正し、即日施行する。(第53条追加)

附 則

この学則は、2020年2月25日に改正し、2020年4月1日より施行する。(別表改正) ただし、この施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

附 則

この学則は、2021年2月24日に改正し、2021年4月1日より施行する。(第26条、別表改正) ただし、この施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

2 第26条に関しては2021年度以前入学生にも適用する。

附 則

この学則は、2022年2月25日に改正し、2022年4月1日より施行する。(第4条の3、第47条追加、第29条、別表改正) ただし、この施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

附 則

この学則は、2023年2月24日に改正し、2023年4月1日より施行する。(第6条改正)

附 則

1 この学則は、2023年2月24日に改正し、2024年4月1日より施行する。(第3条、第4条、第29条、別表改正)

ただし、この学則施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

2 第3条、第4条、第29条第1項に関わらず、メディカルバイオサイエンス学科は、当該学科に2024年3月31日に在籍する学生が在籍しなくなるまでの間存続するものとする。

附 則

この学則は、2023年5月29日に改正し、2023年6月1日から施行する。(第6条改正)

附 則

この学則は、2024年2月27日に改正し、2024年4月1日より施行する。(第26条、別表改正) ただし、この施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

附 則

この学則は、2025年3月25日に改正し、2025年4月1日より施行する。(別表改正) ただし、この施行の日前に入学した者については、従前の学則を適用する。

附 則

この学則は、2025年3月25日に改正し、2026年度入学生から適用する。(第4条)

別表

1. フロンティアバイオサイエンス学科

授業科目	単位数
数理学Ⅰ（数学基礎）	2
数理学Ⅱ（力学）	2
数理学Ⅲ（確率・統計）	2
数理学Ⅳ（電磁気学）	2
数学基礎演習Ⅰ（基礎解析）	1
数学基礎演習Ⅱ（微分積分）	1
線形代数学	2
解析学	2
数理学Ⅴ（数理モデル）	2
エッセンシャル生物学Ⅰ	2
エッセンシャル生物学Ⅱ	2
生物学基礎	2
化学基礎	2
一般英語Ⅰ	2
一般英語Ⅱ	2
科学英語Ⅰ	2
科学英語Ⅱ	2
英会話	1
科学英語Ⅲ	2
科学英語Ⅳ	2
英語多読Ⅰ	2
英語多読Ⅱ	2
TOEIC講座Ⅰ	2
TOEIC講座Ⅱ	2
海外英語研修	1
言語表現Ⅰ	2
言語表現Ⅱ	2
日本語Ⅰ（留学生）	1
日本語Ⅱ（留学生）	1
自然科学基礎実験Ⅰ	3
自然科学基礎実験Ⅱ	3
コンピュータ基礎実習	1
コンピュータ応用実習	1
経済学	2
科学技術論	2
健康保健学	2
法学（日本国憲法）	2
サイエンスイノベーション入門	2
現代の政治と社会	2
社会学	2
哲学	2
世界史	2
心理学	2
文学	2
日本の歴史と文化	2
近江の文化と歴史	2
大学での学びと実践方法	2
キャリアデザイン	2
地域連携学習	2
マーケティング概論	2
インターンシップ実習	2
バイオ実験夢チャレンジⅠ	1

授業科目	単位数
バイオ実験夢チャレンジⅡ	1
生命倫理・研究倫理	2
生命情報科学概論	2
ゲノム解析学	2
エッセンシャル生化学Ⅰ	2
エッセンシャル生化学Ⅱ	2
エッセンシャル化学Ⅰ	2
エッセンシャル化学Ⅱ	2
安全学	2
バイオビジネス概論	2
化学工学基礎	2
生物工学システム	2
工学デザイン概論	2
生命情報科学実習	1
応用実験Ⅰ（DNA系）	1.2
応用実験Ⅰ（タンパク質系）	1.2
応用実験Ⅰ（動植物系）	1.2
応用実験Ⅰ（物質系）	1.2
応用実験Ⅰ（微生物系）	1.2
応用実験Ⅱ（DNA系）	1.2
応用実験Ⅱ（タンパク質系）	1.2
応用実験Ⅱ（動植物系）	1.2
応用実験Ⅱ（物質系）	1.2
応用実験Ⅱ（情報系）	1.2
有機化学	2
遺伝子工学	2
生体高分子解析学	2
環境化学	2
基礎微生物学	2
細胞工学	2
水生動物学	2
遺伝学概論	2
機器分析概論	2
植物遺伝子工学	2
生体分子応答学	2
タンパク質工学	2
環境保全学	2
応用微生物学	2
生物生産学概論	2
生体材料工学	2
糖質生物学	2
生理活性物質概論	2
免疫学	2
F 専門実験ⅠB（植物環境系）	3
F 専門実験ⅠA（動物細胞系）	3
F 専門実験ⅡA（遺伝系）	3
F 専門実験ⅡB（生命科学系）	3
生物情報統計学	2
進化生物学	2
構造生物学	2
ゲノム解析学演習	2
発生生物学	2

授業科目	単位数
神経科学	2
動物系統分類学	2
動物生殖発生学	2
解剖組織学	2
食品衛生学	2
医学概論	2
医用工学演習	1.5
医療情報学概論	2
一般検査学	2
臨床微生物学	2
病理学	4
臨床生理学Ⅱ	4
臨床化学	2
臨床血液学	2
応用実験Ⅱ（一般検査系）	3
病理学実習	2
臨床生理学実習	3
解剖組織学演習	1
臨床微生物学実習	3
免疫検査学実習	3
臨床化学実習	3
応用実験Ⅱ（臨床血液系）	2
臨床検査特論	4
臨床免疫学	2
臨地実習Ⅱ	7
文献調査・講読	2
卒業研究	8
特殊講義	1, 2 又は 4
医療安全管理学演習	1.5
動物生理学	2
データ解析学	2
栄養学	2
多様性生物学概論	2
生命情報科学専門実習Ⅰ	1
生命情報科学専門実習Ⅱ	1
エッセンシャル動物科学	2
生産管理システム	1
近江でのSDGsの実践	2
病原ウイルス学	2
薬理学	2
臨床病態学	2
病理組織細胞学	1
輸血・移植検査学	1.5
臨床生理学Ⅰ	2
応用実験Ⅱ（臨床生理系）	1
検査総合管理学	2
公衆衛生学	2
臨地実習前技能演習	1
臨地実習Ⅰ	4
文献調査・講読（臨床）	1
卒業研究（臨床）	5

授業科目	単位数
コンピュータシステム基礎	2
人工知能概論	2
ネットワークと情報セキュリティ	2
データベース概論	2
応用実習Ⅰ（プログラミング系）	1.2

2. アニマルバイオサイエンス学科

授業科目	単位数
数理学Ⅰ（数学基礎）	2
数理学Ⅱ（力学）	2
数理学Ⅲ（確率・統計）	2
数理学Ⅳ（電磁気学）	2
数学基礎演習Ⅰ（基礎解析）	1
数学基礎演習Ⅱ（微分積分）	1
線形代数学	2
解析学	2
数理学Ⅴ（数理モデル）	2
エッセンシャル生物学Ⅰ	2
エッセンシャル生物学Ⅱ	2
生物学基礎	2
化学基礎	2
一般英語Ⅰ	2
一般英語Ⅱ	2
科学英語Ⅰ	2
科学英語Ⅱ	2
英会話	1
科学英語Ⅲ	2
科学英語Ⅳ	2
英語多読Ⅰ	2
英語多読Ⅱ	2
TOEIC講座Ⅰ	2
TOEIC講座Ⅱ	2
海外英語研修	1
言語表現Ⅰ	2
言語表現Ⅱ	2
日本語Ⅰ（留学生）	1
日本語Ⅱ（留学生）	1
自然科学基礎実験Ⅰ	3
自然科学基礎実験Ⅲ	3
コンピュータ基礎実習	1
コンピュータ応用実習	1
経済学	2
科学技術論	2
健康保健学	2
法学（日本国憲法）	2
サイエンスイノベーション入門	2
現代の政治と社会	2
社会学	2
哲学	2
世界史	2
心理学	2
文学	2
日本の歴史と文化	2
近江の文化と歴史	2
大学での学びと実践方法	2
キャリアデザイン	2
地域連携学習	2
マーケティング概論	2
インターンシップ実習	2

授業科目	単位数
バイオ実験夢チャレンジⅠ	1
バイオ実験夢チャレンジⅡ	1
生命倫理・研究倫理	2
生命情報科学概論	2
ゲノム解析学	2
エッセンシャル生化学Ⅰ	2
エッセンシャル生化学Ⅱ	2
エッセンシャル化学Ⅰ	2
エッセンシャル化学Ⅱ	2
安全学	2
バイオビジネス概論	2
化学工学基礎	2
生物工学システム	2
工学デザイン概論	2
生命情報科学実習	1
応用実験Ⅰ（DNA系）	1.2
応用実験Ⅰ（タンパク質系）	1.2
応用実験Ⅰ（物質系）	1.2
応用実験Ⅰ（動植物系）	1.2
応用実験Ⅱ（情報系）	1.2
応用実験Ⅰ（動物科学）	1.2
応用実験Ⅱ（系統分類学）	1.2
応用実験Ⅱ（遺伝子機能解析）	1.2
A専門実験Ⅰ（神経生理学）	1.2
A専門実験Ⅰ（次世代シーケンシング）	1.2
A専門実験Ⅱ（実験動物学）	1.5
遺伝子工学	2
生体高分子解析学	2
植物科学概論	2
基礎微生物学	2
水生動物学	2
遺伝学概論	2
機器分析概論	2
生体分子応答学	2
タンパク質工学	2
環境保全学	2
応用微生物学	2
生物生産学概論	2
糖質生物学	2
生理活性物質概論	2
免疫学	2
進化生物学	2
多様性生物学概論	2
エッセンシャル動物科学	2
実験動物学	2
実験動物学演習	1
動物生理学	2
発生生物学	2
神経科学	2
野外調査実習	1
臨海実習	1

授業科目	単位数
動物系統分類学	2
生物多様性実習	1
動物生殖発生学	2
組織学	2
動物栄養学	2
フロンティア動物科学	2
薬理学	2
応用実験Ⅱ（発生生殖学）	1.2
応用実験Ⅱ（組織解剖学）	1.2
A 専門実験Ⅰ（栄養病態学）	2.4
A 専門実験Ⅰ（遺伝学）	1.2
A 専門実験Ⅱ（病理学）	1.5
湖北動物プロジェクトⅠ	1
湖北動物プロジェクトⅡ （BIWAKO SYSTEM）	1
家畜飼養学実習	1
公衆衛生学	2
食品衛生学	2
文献調査・講読	2
卒業研究	8
特殊講義	1, 2 又は 4
データ解析学	2
有機化学	2
ゲノム解析学演習	2
栄養学	2
生産管理システム	1
近江でのSDGsの実践	2
コンピュータシステム基礎	2
人工知能概論	2
ネットワークと情報セキュリティ	2
データベース概論	2
応用実習Ⅰ（プログラミング系）	1.2

3. バイオデータサイエンス学科

授業科目	単位数
一般英語 I	2
一般英語 II	2
科学英語 I	2
科学英語 II	2
科学英語 III	2
科学英語 IV	2
英語多読 I	2
英語多読 II	2
英会話	1
TOEIC 講座 I	2
TOEIC 講座 II	2
海外英語研修	1
言語表現 I	2
言語表現 II	2
日本語 I (留学生)	1
日本語 II (留学生)	1
科学技術論	2
サイエンスイノベーション入門	2
健康保健学	2
社会学	2
現代の政治と社会	2
哲学	2
世界史	2
心理学	2
経済学	2
法学 (日本国憲法)	2
データ解析学	2
文学	2
日本の歴史と文化	2
近江の文化と歴史	2
近江での SDGs の実践	2
大学での学びと実践方法	2
地域連携学習	2
バイオビジネス概論	2
化学工学基礎	2
マーケティング概論	2
工学デザイン概論	2
キャリアデザイン	2
生物工学システム	2
インターンシップ実習	2
生産管理システム	1
数理科学 I (数学基礎)	2
数理科学 II (力学)	2
数理科学 III (確率・統計)	2
数理科学 IV (電磁気学)	2
数理科学 V (数理モデル)	2
線形代数学	2
数学基礎演習 I (基礎解析)	1
数学基礎演習 II (微分積分)	1
解析学	2
化学基礎	2

授業科目	単位数
エッセンシャル生化学 I	2
エッセンシャル生化学 II	2
エッセンシャル化学 I	2
エッセンシャル化学 II	2
安全学	2
機器分析概論	2
有機化学	2
コンピュータ基礎実習	1
コンピュータ応用実習	1
生命情報科学概論	2
生命情報科学実習	1
エッセンシャル生物学 I	2
生物学基礎	2
基礎微生物学	2
エッセンシャル動物科学	2
エッセンシャル生物学 II	2
遺伝子工学	2
植物科学概論	2
多様性生物学概論	2
遺伝学概論	2
生命倫理・研究倫理	2
自然科学基礎実験 I	3
自然科学基礎実験 II	3
応用実習 I (プログラミング系)	1.2
応用実験 I (DNA系)	1.2
応用実験 I (タンパク質系)	1.2
応用実習 I (データサイエンス系)	1.2
応用実験 I (動植物系)	1.2
応用実験 II (物質系)	1.2
応用実験 II (DNA系)	1.2
応用実験 II (タンパク質系)	1.2
応用実験 II (動植物系)	1.2
応用実習 II (データサイエンス系)	1.2
バイオ実験夢チャレンジ I	1
バイオ実験夢チャレンジ II	1
コンピュータシステム基礎	2
人工知能概論	2
ネットワークと情報セキュリティ	2
データサイエンス理論 (基礎)	2
データベース概論	2
データサイエンス理論 (応用)	2
ゲノム解析学	2
医用工学概論	2
進化生物学	2
ゲノム解析学演習	2
構造生物学	2
実験動物学	2
動物生理学	2
組織学	2
医学概論	2
栄養学	2

授業科目	単位数
神経科学	2
食品衛生学	2
動物系統分類学	2
動物生殖発生学	2
免疫学	2
病原ウイルス学	2
公衆衛生学	2
細胞工学	2
発生生物学	2
薬理学	2
医薬分子機能学	2
生体高分子解析学	2
創薬科学概論	2
タンパク質工学	2
生理活性物質概論	2
生体材料工学	2
D 専門実習 I (データサイエンス系)	3
D 専門実験 I (創薬科学系)	3
D 専門実験 II (医科学系)	3
D 専門実習 II (データサイエンス系)	3
文献調査・購読	2
卒業研究	8
特殊講義	1.2 又は 4

長浜バイオ大学学則の一部改正について

1.改正理由

収容定員の適正化を図るため入学定員・収容定員の変更をおこなう。

2.新旧対照表（下線部分変更箇所）

改正案	現 行																								
(省略)	(省略)																								
<p>(定員) 第4条 前条の学部^{に置く}入学定員、収容定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">学科</th> <th style="width: 20%;">入学定員</th> <th style="width: 50%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フロンティアバイオサイエンス学科</td> <td style="text-align: center;"><u>95名</u></td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"><u>720名</u></td> </tr> <tr> <td>アニマルバイオサイエンス学科</td> <td style="text-align: center;">50名</td> </tr> <tr> <td>バイオデータサイエンス学科</td> <td style="text-align: center;"><u>35名</u></td> </tr> </tbody> </table>	学科	入学定員	収容定員	フロンティアバイオサイエンス学科	<u>95名</u>	<u>720名</u>	アニマルバイオサイエンス学科	50名	バイオデータサイエンス学科	<u>35名</u>	<p>(定員) 第4条 前条の学部^{に置く}入学定員、収容定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">学科</th> <th style="width: 20%;">入学定員</th> <th style="width: 10%;"><u>編入学定員</u></th> <th style="width: 40%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フロンティアバイオサイエンス学科</td> <td style="text-align: center;"><u>118名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>3年次 4名</u></td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"><u>960名</u></td> </tr> <tr> <td>アニマルバイオサイエンス学科</td> <td style="text-align: center;">50名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>バイオデータサイエンス学科</td> <td style="text-align: center;"><u>70名</u></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	入学定員	<u>編入学定員</u>	収容定員	フロンティアバイオサイエンス学科	<u>118名</u>	<u>3年次 4名</u>	<u>960名</u>	アニマルバイオサイエンス学科	50名		バイオデータサイエンス学科	<u>70名</u>	
学科	入学定員	収容定員																							
フロンティアバイオサイエンス学科	<u>95名</u>	<u>720名</u>																							
アニマルバイオサイエンス学科	50名																								
バイオデータサイエンス学科	<u>35名</u>																								
学科	入学定員	<u>編入学定員</u>	収容定員																						
フロンティアバイオサイエンス学科	<u>118名</u>	<u>3年次 4名</u>	<u>960名</u>																						
アニマルバイオサイエンス学科	50名																								
バイオデータサイエンス学科	<u>70名</u>																								
(省略)	(省略)																								
<p><u>附 則</u> <u>この学則は、2025年3月25日に改正し、2026年度入学生から適用する。(第4条)</u></p>																									

学則変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容	1
イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性	1
ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	2

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

近年の受験状況を踏まえ、令和 8（2026）年度以降の入学者について、バイオサイエンス学部フロンティアバイオサイエンス学科及びバイオデータサイエンス学科の入学定員を削減し、収容定員を下記のとおり変更し、教育上適正な規模とする。

学部	学科	入学定員			収容定員
		変更前	変更後	増減	
バイオサイエンス学部	フロンティアバイオサイエンス学科	118 名	95 名	△23 名	380 名
		3 年次編入 4 名	3 年次編入 0 名	3 年次編入 △4 名	
	アニマルバイオサイエンス学科	50 名	50 名	－	200 名
	バイオデータサイエンス学科	70 名	35 名	△35 名	140 名
合計		240 名	180 名	△60 名	720 名

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学は、「平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた『行動する思考人』の育成」を教育理念とし、新時代にふさわしい豊かな人間性と幅広い教養を育み、科学的合理性を備えた最先端のバイオサイエンス専門技術を教育し、時代を切り拓く視野と創造性、高い専門知識と技術力を備えた人材を育成するとともに、地域社会の発展、産業の振興、国際交流、学術文化の発展に寄与することを目的として、平成 15(2003)年に開学した。

開学以来、本学は時代の要請と社会の発展に応じ、学科の再編やカリキュラム改革を進め、現在、バイオサイエンス学部は、フロンティアバイオサイエンス学科、アニマルバイオサイエンス学科、バイオデータサイエンス学科の 3 学科構成となっている。

これまで本学では、入学者選抜の機能を十分に果たすに足る志願者の確保に努め、令和 2（2020）年度までは入学定員を充足し、定員を適正に管理していた。しかし、令和 3（2021）年度の新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、受験生の志望校選択動向の変化により、それ以降は入学定員を確保することが厳しい状況となっている。

これらの理由から、バイオサイエンス学部のフロンティアバイオサイエンス学科およびバイオデータサイエンス学科の入学定員を見直し、大学全体の規模を適正化することが、少

人数教育の実現などを通じて教育の質の向上につながると判断した。また、修学支援新制度の給付奨学金を利用する学生が増加しており、本学が機関要件を満たさず、同制度の適用対象外となれば、修学の継続が困難となる学生が増加すると予測されることから、収容定員を変更することとした。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

この度の学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程、教育方法及び履修指導方法、教員組織の変更はない。

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目次

(1) 収容定員を変更する組織の概要	1
①収容定員を変更する組織の概要	1
②収容定員を変更する組織の特色	1
(2) 人材需要の社会的な動向等	2
①収容定員を変更する組織で養成する人材の 全国的、地域的、社会的動向の分析	2
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	2
③新設組織の主な学生募集地域	3
④既設組織の定員充足の状況	3
(3) 学生確保の見通し	4
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	4
ア 既設組織における取組とその目標	4
イ 新設組織における取組とその目標	5
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、 新設組織での入学者の見込み数	5
②競合校の状況分析	6
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	6
イ 競合校の入学志願動向等	6
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等	6
エ 学生納付金等の金額設定の理由	7
③先行事例分析	7
④学生確保に関するアンケート調査	7
⑤人材需要に関するアンケート調査等	7
(4) 新設組織の定員設定の理由	7

(1) 収容定員を変更する組織の概要

①収容定員を変更する組織の概要

学部	学科	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	所在地
バイオサイ エンス学部	フロンティアバイ オサイエンス学科	95名	-	380名	滋賀県長浜市 田村町 1266 番地
	アニマルバイオサイ エンス学科	50名	-	200名	
	バイオデータサイ エンス学科	35名	-	140名	
合計		180名	-	720名	

②収容定員を変更する組織の特色

長浜バイオ大学は、「平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた『行動する思考人』の育成」を教育理念とし、新時代にふさわしい豊かな人間性と幅広い教養を育み、科学的合理性を備えた最先端のバイオサイエンス専門技術を教育し、時代を切り拓く視野と創造性、高い専門知識と技術力を備えた人材を育成するとともに、地域社会の発展、産業の振興、国際交流、学術文化の発展に寄与することを目的として、平成 15（2003）年に開学した。

開学以来、本学は時代の要請と社会の発展に応じ、学科の再編やカリキュラム改革を進め、現在、バイオサイエンス学部は、フロンティアバイオサイエンス学科、アニマルバイオサイエンス学科、バイオデータサイエンス学科の 3 学科構成となっている。

フロンティアバイオサイエンス学科は、生命科学領域の基本から実践に至る知識と技術を修得し、食品、エネルギー、環境保全、分析化学、化学工業、バイオ、医療、IT などの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで活躍できる人材の育成を目的とする。

アニマルバイオサイエンス学科は、アニマルバイオサイエンス領域の基本から実践に至る知識と技術を修得し、食品、医薬、畜産、愛玩動物、環境保全などの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで活躍できる人材の育成を目的とする。

バイオデータサイエンス学科は、基本から実践に至るバイオデータサイエンスの知識と技術を修得し、医薬品、医用機器、臨床分析、化学などの生命科学分野や製造、流通、情報通信などの様々な産業に係わる企業、大学、国公立機関などにおいてデータサイエンティストとして活躍できる人材の育成を目的とする。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

長浜バイオ大学は、建学の精神のもと、科学的合理性を備えた最先端のバイオサイエンス専門技術を教育し、時代を切り拓く視野と創造性、高い専門知識と技術力を備えた人材を養成しており、平成 15 (2003) 年に大学を開設して以来、22 年にわたり社会で活躍できる人材を輩出してきた。

内閣府のバイオエコノミー戦略(令和 6 (2024) 年 6 月統合イノベーション戦略推進会議決定)を見ると、バイオテクノロジーやバイオマスを活用するバイオエコノミーは、環境・食料・健康等の諸課題の解決、サーキュラーエコノミーと持続可能な経済成長の実現を可能にするものとして、投資やルール形成等、グローバルな政策・市場競争が加速している。我が国においても、バイオものづくりをはじめとした総額 1 兆円規模の大型予算が措置されるなど、バイオエコノミーに対する期待が高まっている。このことは、これまでのバイオサイエンス分野の基礎研究の成果が幅広い産業分野で活用され始めている証左である。一方で今後の課題として、産業界で活躍できるバイオものづくりに関する人材不足(合成生物学、発酵生産、AI 等のデジタル分野、エンジニアリング、経営等)が指摘されている【資料 1】。

こうした国の政策動向や産業界の人材ニーズの高まりを鑑み、本学が中心となり滋賀県・長浜市・県内外のバイオ企業等 10 社の間で地域における人材育成を目的とする産官学連携組織である「産学連携人材育成コンソーシアム」を、令和 6 (2024) 年 12 月 10 日に発足させた。

今後、産業界や地域の課題解決のためのイノベーション・エコシステムを構築し、専門知を社会実装する姿勢や態度を学ぶ教育研究活動を提供する予定である。そして教育の一環として展開する PBL を通じて、実際の社会課題及び地域課題の問題発見・解決への専門知識や技術の活用を体験し、社会課題に取り組む意欲を育む人材を育成するため、主に以下の事項について連携を進めていくことが決定している【資料 2】。

- (1) 人材育成の充実に関する課題の共有と教育プログラム化
- (2) 学生の育成に関する講師の派遣
- (3) 企業等からのリカレント教育の受け入れ
- (4) 企業および地域の振興推進や課題の解決に向けた連携教育事業
- (5) その他、目的達成のために必要な事業

以上のことから、バイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する知識・技術を有する人材が全国的、社会的に不足しているのは明白である。また大学が立地する地域においては、自治体や企業との間で地域産業等を支える理系人材の必要性や産官学連携を推進していくことを確認した産官学連携組織が発足したこともあり、地域においても人材需要が増大することが予想される。本学が育成する人材が、全国的、地域的、社会的にも需要があり、大学として、これからの将来に向けて、そのような人材を養成することが重要であると考えられる。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移をみると、令和7（2025）年度は、全国の18歳人口は約109万人となっている。その後、5年間は横ばいが続くが、令和22（2040）年度には約88万人まで減少することが予測されている【資料3】。

滋賀県における18歳人口予測については、リクルート進学総研マーケットレポートによると、令和18年（2036）年度の18歳人口は11,791人で令和6年（2024）年度と比較して1,527人の減少、11.5%の減少率となっており、全国の減少率11.4%とほぼ同等の数値である。今後の18歳人口は、令和13（2031）年度までは前年に比べ微増ではあるが、その後は減少傾向となっている【資料4】。

近畿地区の高卒者の進学者数・進学率（現役）の推移に示されているとおり、滋賀県内の高校卒業生数は減少傾向ではある。しかしながら、大学進学者数は、平成27（2015）年は6,011名、令和6（2024）年は6,512名で501人増加、進学率は8.8%の増加となっている【資料5】。

以上のことから、全国的、地域的動向の分析を踏まえ、長浜バイオ大学への進学状況が芳しくないことから、本学の定員充足は今後も厳しい状況が続いていくと認識しているため、入学定員を適正化する必要がある。

③新設組織の主な学生募集地域

【別紙1】に示す出身高校の所在地県別の入学者数の構成比のとおり、本学は滋賀県内の高校からの入学者が最も多く、構成比は25.3%を超えていることが分かる。滋賀県以外では、岐阜県、大阪府、京都府といった近隣地域からの入学者も多いため、教職員が合同で、これらのエリア（滋賀・岐阜・京都・大阪・愛知）の高校訪問や模擬授業などの広報活動を行っている。

新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況は、過去3か年において滋賀県の大学の入学定員充足率が令和4（2022）年度は99.41%、令和5（2023）年度は100.00%、令和6（2024）年度は100.24%である。また、新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況は、「理・工学系」学部では、令和4（2022）年度が104.35%、令和5（2023）年度が101.88%、令和6（2024）年度が99.39%の定員充足率となっている【別紙1】。

このような状況のもと、本学の入学定員充足率は、令和4（2022）年度が67.65%、令和5（2023）年度が74.37%、令和6（2024）年度が73.11%であり、定員を満たすことが難しい状況にある一方、メインターゲットとする滋賀県・岐阜県の過去3か年の志願者数は、令和4年度が141名、令和5（2023）年度が138名、令和6（2024）年度が140名であり、入学者数は令和4（2022）年度が64名、令和5（2023）年度が66名、令和6（2024）年度が73名と、回復傾向が見られる。

以上のことから、入学定員を180名に減員し、産学連携人材育成コンソーシアム事業との相乗効果も生かした学生募集活動を行うことで、滋賀県および岐阜県の高校生をメインターゲットとした学生確保に十分な成果が期待できると考える。

④既設組織の定員充足の状況

本学の入学定員充足の状況について学科ごとで見えていくと、フロンティアバイオサイエンス学科では、【別紙 2-1】に示すとおり、令和 2 (2020) 年度まで 100%以上で推移していたが、令和 3 (2021) 年度以降は 75.4%、65.3%、74.6%、71.2%、平均 71.6%の充足率で推移している。今後の定員充足の見通しについては、直近 5 年間の実人数の志願者数、合格者数、入学者数を基に、変更後の入学定員 95 人を確保するために必要な合格者数を想定すると、288 人 (5 年間の平均歩留率 33%) の合格者が必要となる。5 年間の平均志願者数は 325 人、平均合格者数が 286 人であることから、定員充足に必要な合格者数の確保は可能であり、入学定員の充足は見込める。

アニマルバイオサイエンス学科では、【別紙 2-2】に示すとおり、直近 5 年の入学定員充足率は、令和 3 (2021) 年度を除いて 100%台を維持している。今後の定員充足の見通しについては、直近 5 年間の実人数の志願者数、合格者数を基に入学定員 50 人を確保するために必要な合格者数を想定すると、139 人 (5 年間の平均歩留率 36%) の合格者が必要となる。5 年間の平均志願者数は 217 人、平均合格者数が 152 人であることから、定員充足に必要な合格者数の確保は可能であり、入学定員の充足は見込める。

バイオデータサイエンス学科では、【別紙 2-3】に示すとおり、令和 2 (2020) 年度は 100%以上であったが、令和 3 (2021) 年度以降は 71.4%、44.3%、42.9%、50.0%と、大幅な入学定員未充足が続いている。今後の定員充足の見通しについては、直近 5 年間の実人数の志願者数、合格者数、入学者数を基に、変更後の入学定員 35 人を確保するために必要な合格者数を想定すると、140 人 (5 年間の平均歩留率 25%) の合格者が必要となる。5 年間の平均志願者数は 185 人、平均合格者数が 174 人であることから、定員充足に必要な合格者数の確保は可能であり、入学定員の充足は見込める。

これまで本学では、入学者選抜の機能を十分に果たすに足る志願者の確保に努め、令和 2 (2020) 年度までは入学定員を充足し、定員を適正に管理していた。しかし、令和 3 (2021) 年度の新型コロナウイルス感染症の拡大以降、オープンキャンパス等の大学施設見学の機会の減少や高校訪問に注力できなかったこと、受験生の志望校選択動向の変化により、それ以降は入学定員を確保することが厳しい状況となっている。しかしながら、昨年度より SNS 活用の拡大、高校訪問と模擬授業の強化、進学ガイダンスへの参加などの積極的な広報活動を継続しているところである。

以上のことから、バイオサイエンス学部のフロンティアバイオサイエンス学科およびバイオデータサイエンス学科の入学定員を減員することで、大学全体の規模を適正化させることにより教育の質を向上させることが可能であると判断した。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生募集のためのPR活動について、オープンキャンパスでは、本学受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、大学説明、実験・実習体験、研究室訪問、学生との懇談、キャンパスツアー、入試相談などを実施している。オープンキャンパスには、学生にもスタッフとして参加してもらい、受付、キャンパスツアー、先輩学生による大学生活と学びの紹介（プレゼン）の実施を通して、身近な先輩として受験生にアドバイスや体験を語ってもらう機会を設けている。

オープンキャンパスの実績は【別紙3】に示す通り、令和6（2024）年度の参加者総数は415人（前年度比117%）、うち受験対象者数は216人（同123%）で受験者数は131人（同109%）、入学者数は97人（同121%）であった。オープンキャンパス参加者からの受験率は60%を超え、入学率も約45%となっている。このように、オープンキャンパスが学生確保にもたらす影響は大きいので、より効果的なオープンキャンパスを実施していく予定である。

高校訪問については、入試担当職員及び他課職員と教員が連携し、近畿・東海圏の高等学校の進路指導部へ本学の教育内容や入試情報、卒業生の状況等の説明、担当する高等学校の進路状況及び要望事項等の情報収集等を行っている。訪問高校については、【別紙1】にある出身高校の所在地別の入学者数の構成比上位5県や過去の実績等を基に重点校を選定し、①滋賀県（48校）、②岐阜県（23校）、③大阪府（26校）、④京都府（28校）、⑤愛知県（25校）、⑥福井・三重（25校）を訪問する広報を強化・継続していく計画である。

イ 新設組織における取組とその目標

入学確保に向けて、オープンキャンパスの内容を見直し、学生主体の企画やプログラム、総合型選抜対策講座などを導入する。また、令和7（2025）年度よりMA（マーケティングオートメーション）ツールを導入することで、オープンキャンパス参加者に対するフォローの強化と、資料請求者へオープンキャンパス参加を促す接触の強化を図る。

高校訪問については、引き続き教職員が連携して滋賀県、京都府、大阪府、岐阜県、愛知県、福井県の重点高校を中心に訪問し、学生確保に繋げる。

経済的な支援を行うことにより、非常に高い意欲を持って学修に臨んでもらうため、入学試験の成績上位者を対象とする「特待生制度」を実施する。S特待生とA特待生の2つの区分で採用を行い、前者は4年間国公立大学並みの学費、後者は4年間授業料を50%減免することで、学生の修学支援を行う。

早期入学確保のため、重点エリアの実績校を中心に、総合型選抜要項を従来より早い時期に作成し、大学案内に同封して送付する。また、SNS（主にInstagramとLINEによるイベント発信、YouTubeでの学生活動、研究活動等の情報発信）を積極的に活用した広報活動や進学情報業者のデジタルサービスや会員名簿を活用し、オープンキャンパスや入試情報、特待生制度を高校生へ直接発信する。

上記に加えて、非接触者に対し、年内入試の受験希望者にはオープンキャンパス参加の促進、年明入試の受験希望者には「特待生制度」周知を目的とした、バナー広告やDM、FAXDM、

連合広告などを実施し、積極的に広報展開する。

これらの取組みを実施することで、定員変更後も入学者の確保を図る。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上述した学生確保に向けた取組みによりオープンキャンパスの参加者数が増加し、オープンキャンパスに参加した受験対象者から約 4 割の入学者数が見込めること、「(2) 人材需要の社会的な動向等 ④「既設組織の定員充足の状況」で説明した入学定員の充足見込みなど、これらを総合的に判断し、令和 8 (2026) 年度は、バイオサイエンス学部 180 名 (フロンティアバイオサイエンス学科 95 名、アニマルバイオサイエンス学科 50 名、バイオデータサイエンス学科 35 名) の入学者を見込めると考えている。

②競合校の状況分析 (立地条件, 養成人材, 教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析, 優位性

競合校「龍谷大学 農学部 生命科学科」

所在地が滋賀県、学校種が四年制の大学、同系統の学問分野があり教育内容が類似していること、定員規模が近いことを踏まえ競合校を選定した。学生募集地域についても滋賀県が中心となっており、一般選抜合格者の学力層についても、令和 6 (2024) 年度ベネッセ偏差値で本学 49・競合校 50 である点にも類似性がみられる。

入試については、両大学ともに総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜を軸に実施しており、受験時期や手続き時期等に大きな相違はないが、入学試験成績優秀者に対する奨学金制度を競合校は設けていない。本学では志願者の多い学校推薦型選抜と一般選抜で広く特待生の採用を行い、優秀な学生を確保している。

学生納付金については、初年度納付金は委託徴収費を除き本学 1,590,000 円・競合校 1,562,600 円となっているが、4 年間の学費総額は本学 6,120,000 円 (臨床検査学コース 6,204,000 円)・競合校 6,250,400 円と本学の方が割安となっており、初年度納付金の割高による影響はなく、学生募集において問題ないと考える。

立地条件については、競合校は J R の最寄り駅からバスで約 8 分の場所に位置しており、大学まではスクールバスを運行している。本学は J R の最寄り駅から徒歩 2 分の場所に位置しており、競合校と比較して通学に便利である。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の過去 3 年間の入学志願状況 (志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率) は【資料 7】に示すとおり、入学定員充足率の平均は 1.08 倍であり、定員を充足している。一方、本学のアニマルバイオサイエンス学科は定員を充足しているものの、フロンティアバイオサイエンス学科とバイオデータサイエンス学科は、過去 3 カ年の全てで入学定員が未充足となっている。また、志願者数についても、競合校と本学のアニマルバイオサイエンス学科は増加傾向であるが、フロンティアバイオサイエンス学科とバイオデータサ

イエンス学科は減少または昨年並みの状況となっており、今後も定員未充足の状況が続く可能性は否めない。本学の教育内容は維持しつつ、入学定員を減員して適正な定員管理をおこなうことで、定員充足は可能であると考え。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

該当なし。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学の初年度納付金は 1,590,000 円となっており、今回変更の予定はなく、現行と同額である。また、【資料 8】に示す通り、競合校及び同系統の学科等と比較しても、初年度納付金・入学金ともに他大学と同等またはそれ以下の金額となっていることから、現在の学生納付金等の設定は適正であると考え。

③先行事例分析

既設組織を廃止して新設組織を設置する場合ではないため、該当なし。

④学生確保に関するアンケート調査

収容定員変更に係る学則変更の届出のため省略。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

【資料 9】の長浜バイオ大学の就職・進学等の状況に示す通り、過去 3 カ年の就職希望者に対する就職率は、全ての年度で 95%を上回っている。また、本学への求人は、全ての年度で 10,000 社を超える求人数となっていることから、長浜バイオ大学の養成する人材は、社会において需要があると考え。

(4) 新設組織の定員設定の理由

これまで本学では、入学者選抜の機能を十分に果たすに足る志願者の確保に努め、令和 2 (2020) 年度までは入学定員を充足し、定員を適正に管理していた。しかし、令和 3 (2021) 年度の新型コロナウイルス感染症の拡大以降、オープンキャンパス等の大学施設見学の機会の減少や高校訪問に注力できなかったこと、受験生の志望校選択動向の変化、全国的な 18 歳人口の減少により、それ以降は入学定員を確保することが厳しい状況となっている。人材需要の社会的な動向と学生確保の見通しを踏まえ、募集広報等の強化を行うとともに、フロンティアバイオサイエンス学科の入学定員を 118 名から 95 名、3 年次編入学定員を 4 名から 0 名、バイオデータサイエンス学科の入学定員を 70 名から 35 名に減員することにより、少人数教育の実現等、教育の質をさらに向上させることが可能になると考え、入学定員を 180 名に設定することが適正であると判断した。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目次

【資料1】 バイオエコノミー戦略の概要（内閣府）	1
【資料2】 長浜バイオ大学産学連携人材区政コンソーシアム規約	2
【資料3】 18歳人口と高等教育機関への進学率の推移	3
【資料4】 近畿地区の18歳人口予測（2024年～2036年）	4
【資料5】 近畿地区の高卒者の進学者数・進学率（現役）の推移	5
【資料6】 滋賀県の大学の定員充足状況	6
【資料7】 競合校の入学志願状況等	7
【資料8】 本学・競合校及び同系統の学科等の初年度納付金	8
【資料9】 長浜バイオ大学 就職・進学等の状況（過去3カ年）	9
【別紙1】 既設組織が置かれる都道府県への入学状況	10
【別紙2】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）	
2-1 フロンティアバイオサイエンス学科の状況	11
2-2 アニマルバイオサイエンス学科の状況	12
2-3 バイオデータサイエンス学科の状況	13
【別紙3】 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績	14

【資料1】

バイオエコノミー戦略の概要

- バイオテクノロジーやバイオマスを活用するバイオエコノミーは、環境・食料・健康等の諸課題の解決、サーキュラーエコノミーと持続可能な経済成長の実現を可能にするものとして、投資やルール形成等、グローバルな政策・市場競争が加速。
- 我が国においても、GXやサーキュラーエコノミー、経済安全保障、食料安全保障、創薬力強化等の議論が進展する中で、バイオものづくりをはじめとした総額1兆円規模の大型予算が措置されるなどバイオエコノミーに対する期待が高まっている。
- **バイオエコノミー戦略**※に基づく取組を推進し、我が国の強みを活用して**バイオエコノミー市場を拡大し、諸課題の解決と持続可能な経済成長の両立**につなげていく。(※バイオ戦略(2019年策定、最終更新2021.6)を改定し、名称も変更)

バイオエコノミー市場拡大を目指した取組の推進 2030年に国内外で100兆円規模			
	バイオものづくり・バイオ由来製品	一次生産等(農林水産業)	バイオ医薬品・再生医療等、ヘルスケア
目指す姿	各産業のバイオプロセス転換の推進、未利用資源の活用による環境負荷低減やサプライチェーンの強靱性向上	持続可能な食料供給産業の活性化、木材活用大型建築の普及によるCO ₂ 排出削減・花粉症対策への貢献	日本発のバイオ医薬品等のグローバル展開、医療とヘルスケア産業が連携した健康寿命延伸
技術開発	・バイオテクノロジーとAI等デジタルの融合による微生物・細胞設計プラットフォームの育成とバイオファウンドリ基盤の整備 ・強みとなりうる水素酸化細菌、培養・発酵プロセス等に注力 ・原料制約の解消に向けた未利用バイオマスやCO ₂ 直接利用、生産・収集コストの低減、前処理技術等	・スマート農業に適合した品種の開発・栽培体系の転換、農業者を支援する生成AIの開発等、ゲノム情報を活用した新品種の開発等生産力向上と持続性を両立する研究開発等 ・建築用木材(CLT等)や林業機械の技術開発・実証、ゲノム編集による無花粉スギの開発等	・次世代の医療技術や創薬につながる革新的シーズ創出のための基礎研究と橋渡し機能の強化 ・革新的医薬品・医療機器等の開発を進めるための薬価制度等におけるイノベーションの適切な評価を検討
市場環境	・バイオ由来製品の市場化に向け、まずは高付加価値品の市場化に注力。低コスト化・量産等に向けた規制や市場のあり方の検討、段階的に汎用品の市場化。官民投資規模を3兆円/年に拡大 ・LCA等の評価や製品表示、国際標準化等のルール形成、グリーン購入法等を参考にした需要喚起策の検討	・みどりの食料システム戦略に基づく環境負荷低減に向けた取組等の推進 ・フードテック等先端技術に対する国民理解の促進等。先進技術の海外市場への展開、国際標準等 ・木材利用の意義や効果の普及啓発	・ヘルスケアサービスの信頼性確保のため、医学界・産業界が連携したオーソライズの仕組みの構築を支援 ・安全保障上の観点も含め、CDMO等製造拠点の国内整備及び現場での製造人材の確保
事業環境	・バイオファウンドリ拠点の整備 ・バリューチェーンで求められる人材の育成・確保、周辺産業も含めたサプライチェーンの構築 ・省庁連携による規制・ルールの調整、国際議論への対応、バイオマス活用推進基本計画に基づいたバイオマスの活用推進	・農研機構等において産学官が共同で活用できるインフラの充実・強化。品種の海外流出防止に向けた育成者権管理機関の取組の推進 ・大規模技術実証事業等による農林水産・食品分野のスタートアップの育成 ・木材活用大型建築の設計者・施工者の育成	・日本と諸外国のエコシステムの接続の強化による創薬ベンチャー支援 ・ヘルスケア産業市場の特異性を踏まえたスタートアップ支援
基盤的施策	<ul style="list-style-type: none"> ・若手研究者について研究に専念できる環境整備、競争的研究費の充実 ・バイオとデジタルの融合、研究のDXを一層加速するためのデータベースの整備 ・AIを用いた統合検索技術等の開発、バイオインフォマティクス人材の育成 ・分野ごとや分野横断的なデータの連携・利活用を支える基盤の整備 ・生命の発生・再生から老化までの「ライフコース」に着目した研究等の基礎研究の推進。AIや量子などの異分野の知見の活用の推進 ・バイオリソースの収集・維持・提供の確実な実施と、中核拠点の充実 ・人材・投資を呼び込み、市場に製品・サービスの供給に向けたバイオコミュニティ、スタートアップエコシステム拠点都市等の産学官金が連携した取組の推進 		

(出典：内閣府 バイオエコノミー戦略(概要) 令和6年6月統合イノベーション戦略推進会議決定)

バイオエコノミー市場拡大に向けた施策(1) バイオものづくり・バイオ由来製品①

2030年に目指す市場の姿

目標 53.3兆円(2030年) ← 32.5兆円(2018年)

- ・ **バイオものづくり**について、2030年までに、**官民合わせて年間の投資規模を3兆円に拡大**。
- ・ 中長期的に国際社会でバイオの重要性が増大する中で、**日本が国際競争力を保持している状態**を目指す。
- ・ 各産業でのバイオものづくりへの転換が進み、バイオものづくり拡大の初期段階として、**特に高付加価値な製品領域における市場領域が活発化**
- ・ 国内での未利用資源の活用が進展し、国内における**サプライチェーン強靱性が向上**
- ・ これらを通じて、日本企業の**国際競争力の向上・脱炭素化・資源循環等の社会課題が進展**
- ・ バイオプラスチック導入ロードマップに基づき、2030年までに**バイオプラスチックを最大限(約200万トン)の導入**

今後の課題

- ・ 米中が先行する中で、既に米中で大規模投資が先行するなど、国際競争が激化しているものの、市場が未成熟な新領域であり、支配的なプレイヤーは出てきていない。バイオものづくりの付加価値の源泉となる**微生物の開発や改良等を行うプラットフォーム事業者を国内で育成**する必要。ラポレベルで微生物の開発・改良ができて量産段階でとん挫する「**スケールアップ問題**」への対応が必要。
- ・ **原料の安定調達**、コスト上昇への対応。食料安全保障の制約を受けない非可食バイオマスやCO₂の直接利用、廃棄物等。
- ・ 化石由来品と比較した**コスト競争力**への対応。バイオ由来製品の新規の設備投資、生産性の低下等によりコストが上昇。消費者の受容性や付加価値訴求、**企業の市場予見性を高める必要**。
- ・ 企業が**大規模な培養・発酵**等の生産実証を行うための**実証拠点の不足**。
- ・ バイオものづくりに関する**人材不足**(合成生物学、発酵生産、AI等のデジタル分野、エンジニアリング、経営等)。
- ・ 周辺機器も含めた**サプライチェーン全体を俯瞰した国内産業基盤の確立**。

(出典：内閣府 バイオエコノミー戦略(令和6年6月統合イノベーション戦略推進会議決定) 参考資料)

【資料2】

長浜バイオ大学 産学連携人材育成コンソーシアム規約

(名称)

第1条 本会は、長浜バイオ大学産学連携人材育成コンソーシアム(以下、「本会」という。)と称する。

(目的)

第2条 本会は、産業界や地域の課題解決のためのイノベーション・エコシステムを構築し、専門知を社会実装する姿勢や態度を学ぶ場を提供するとともに、PBLを通じて問題発見・解決を体験し、社会課題に取り組む意欲を育む人材を育成することを目的とする。

(構成)

第3条 本会は、前条の目的に賛同し、長浜バイオ大学より要請された企業および団体等で組織する。

(連携分野)

第4条 本会は、長浜バイオ大学の特色を生かし、主に次の分野で連携する。

- (1) 医療・創薬・健康
- (2) 農業生産・食品開発
- (3) 素材循環システム・環境保全
- (4) 生物系素材開発(木材、繊維、タンパク質、プラスチック等)
- (5) ロボティクス・AI・IT

(連携事項)

第5条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事項について連携し協力する。

- (1) 人材育成の充実に関する課題の共有と教育プログラム化
- (2) 学生の育成に関する講師の派遣
- (3) 企業等からのリカレント教育の受け入れ
- (4) 企業および地域の振興推進や課題の解決に向けた連携教育事業
- (5) その他、目的達成のために必要な事業

2 前項に基づき、協力して行う事業およびその実施に必要な費用等の詳細は、連携者が相互に協議し、別途定めるものとする。

(幹事会)

第6条 本会は、第2条の目的を円滑に推進するため、幹事会を設置する。

2 幹事会に関し、必要な事項は別に定める。

(入退会)

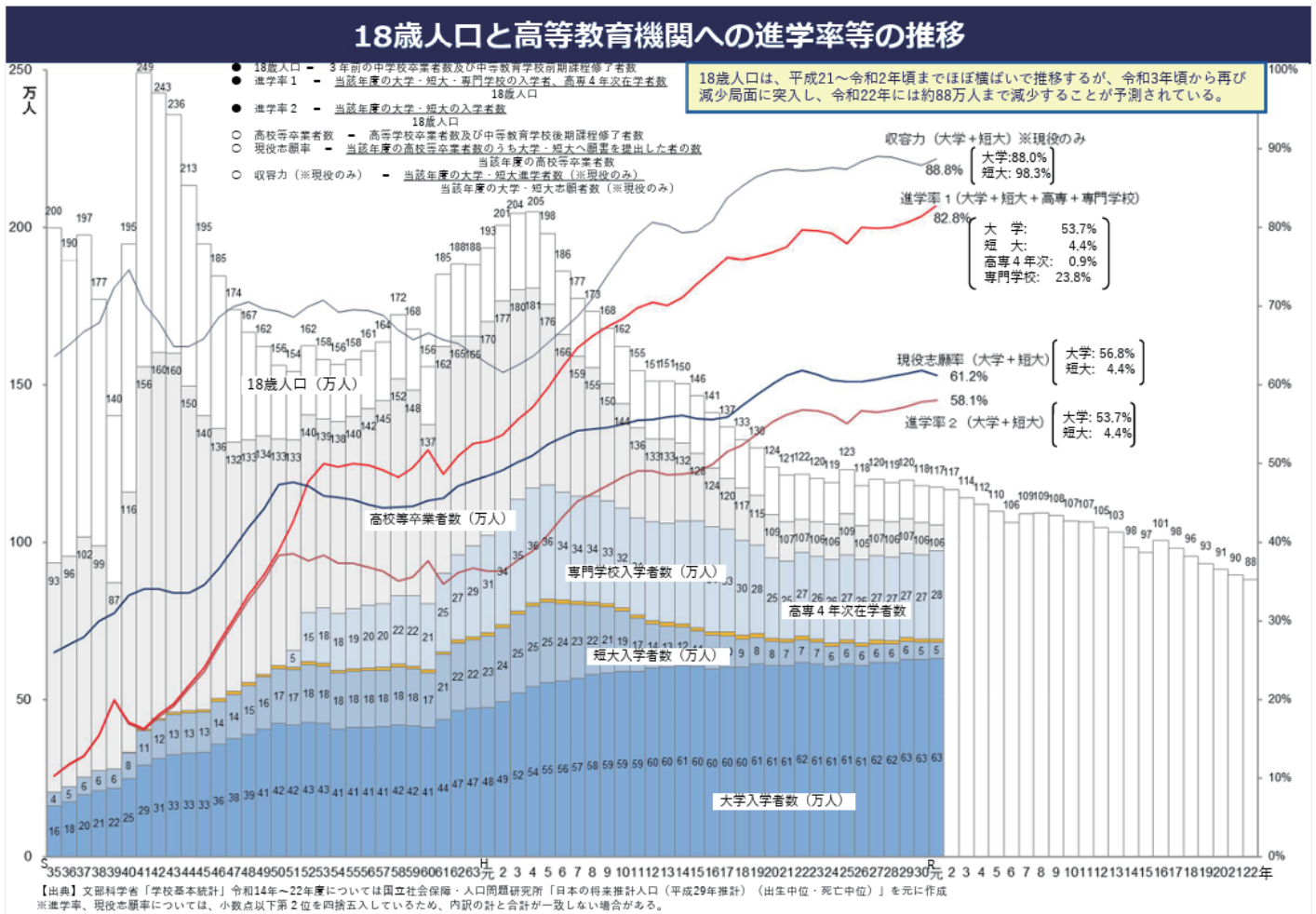
第7条 本会に入会するものは所定の入会届を長浜バイオ大学に提出しなければならない。また、退会しようとするときは、退会届を長浜バイオ大学に提出しなければならない。

附 則

この規約は、2024年12月10日より施行する。

【資料3】

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移



出典：文部科学省

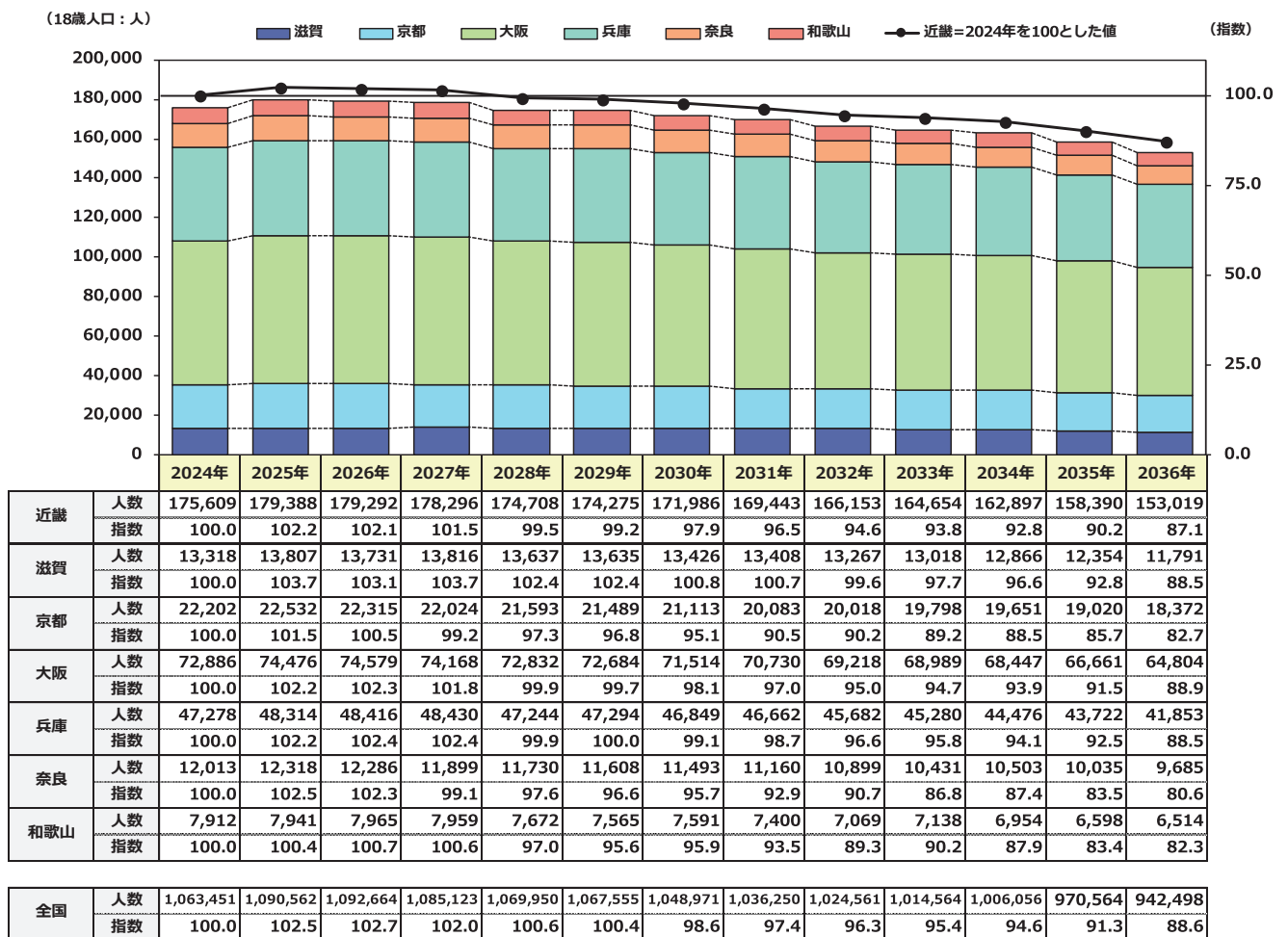
【資料 4】

近畿地区の18歳人口予測（2024年～2036年）

18歳人口予測（全体：近畿：2024～2036年）

■ 2024年175,609人→2036年153,019人（22,590人減少）

- ・近畿エリアは22,590人・12.9%減少し、全国の減少率11.4%を1.5ポイント上回る。
- ・2025年に3,779人増加し、翌2026年は横ばいとなるが、2027年以降は減少が続く。
- ・減少率が高いのは、奈良県（2024年比較19.4%減少）。
- ・減少数が多いのは、大阪府（2024年72,886人→2036年64,804人、8,082人減少）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

リクルート進学総研

（出典：リクルート進学総研マーケットマーケットレポート 2024 Vol.138 2025年2月号）

【資料5】

近畿地区の高卒者の進学者数・進学率（現役）の推移

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：府県別：2015～2024年）

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
滋賀	卒業者数（人）	12,360	12,656	12,884	12,737	12,729	12,786	12,548	12,129	11,765	11,346	
	進学者数（人）	大学	6,011	6,168	6,405	6,170	6,271	6,521	6,565	6,635	6,748	6,512
		短期大学	850	787	799	782	697	702	637	574	500	494
		専門学校	2,049	2,114	2,171	2,137	2,148	2,113	2,187	2,006	1,885	1,810
	進学率（%）	大学	48.6	48.7	49.7	48.4	49.3	51.0	52.3	54.7	57.4	57.4
		短期大学	6.9	6.2	6.2	6.1	5.5	5.5	5.1	4.7	4.2	4.4
専門学校		16.6	16.7	16.9	16.8	16.9	16.5	17.4	16.5	16.0	16.0	
京都	卒業者数（人）	22,966	22,813	23,480	23,074	23,240	22,541	22,049	21,821	21,359	20,757	
	進学者数（人）	大学	13,911	13,846	14,256	13,959	14,158	14,155	14,444	14,670	14,868	14,692
		短期大学	1,254	1,231	1,243	1,134	1,044	1,019	868	824	652	622
		専門学校	3,155	3,128	3,217	3,162	3,106	3,111	3,033	2,884	2,795	2,552
	進学率（%）	大学	60.6	60.7	60.7	60.5	60.9	62.8	65.5	67.2	69.6	70.8
		短期大学	5.5	5.4	5.3	4.9	4.5	4.5	3.9	3.8	3.1	3.0
専門学校		13.7	13.7	13.7	13.7	13.4	13.8	13.8	13.2	13.1	12.3	
大阪	卒業者数（人）	73,971	74,542	75,967	75,146	73,952	72,659	70,413	68,114	66,443	62,725	
	進学者数（人）	大学	39,169	40,561	40,882	40,461	40,096	41,060	41,801	42,281	42,322	40,938
		短期大学	4,657	4,385	4,368	4,139	3,886	3,749	3,338	2,930	2,446	2,183
		専門学校	11,155	10,953	11,413	10,987	11,401	11,566	10,913	10,066	9,389	8,448
	進学率（%）	大学	53.0	54.4	53.8	53.8	54.2	56.5	59.4	62.1	63.7	65.3
		短期大学	6.3	5.9	5.7	5.5	5.3	5.2	4.7	4.3	3.7	3.5
専門学校		15.1	14.7	15.0	14.6	15.4	15.9	15.5	14.8	14.1	13.5	
兵庫	卒業者数（人）	46,090	46,442	47,411	46,566	46,132	45,077	44,167	42,635	41,608	39,279	
	進学者数（人）	大学	25,625	25,773	26,442	26,118	26,046	26,108	26,567	26,645	26,547	25,767
		短期大学	2,330	2,296	2,267	2,035	1,983	2,012	1,787	1,391	1,265	1,046
		専門学校	6,399	6,418	6,606	6,145	6,198	6,336	6,212	5,480	5,375	4,920
	進学率（%）	大学	55.6	55.5	55.8	56.1	56.5	57.9	60.2	62.5	63.8	65.6
		短期大学	5.1	4.9	4.8	4.4	4.3	4.5	4.0	3.3	3.0	2.7
専門学校		13.9	13.8	13.9	13.2	13.4	14.1	14.1	12.9	12.9	12.5	
奈良	卒業者数（人）	12,153	12,166	12,282	12,158	11,630	11,830	11,338	11,102	10,497	9,945	
	進学者数（人）	大学	6,525	6,458	6,483	6,453	6,308	6,508	6,416	6,530	6,294	6,134
		短期大学	733	659	696	573	554	534	540	463	363	286
		専門学校	1,494	1,687	1,726	1,698	1,520	1,604	1,454	1,385	1,312	1,234
	進学率（%）	大学	53.7	53.1	52.8	53.1	54.2	55.0	56.6	58.8	60.0	61.7
		短期大学	6.0	5.4	5.7	4.7	4.8	4.5	4.8	4.2	3.5	2.9
専門学校		12.3	13.9	14.1	14.0	13.1	13.6	12.8	12.5	12.5	12.4	
和歌山	卒業者数（人）	9,102	8,904	8,986	8,793	8,715	8,482	7,968	7,816	7,289	7,074	
	進学者数（人）	大学	3,731	3,853	3,819	3,705	3,779	3,965	3,943	4,016	3,815	3,801
		短期大学	560	518	533	461	414	366	323	333	300	213
		専門学校	1,729	1,620	1,502	1,580	1,522	1,523	1,458	1,297	1,185	1,198
	進学率（%）	大学	41.0	43.3	42.5	42.1	43.4	46.7	49.5	51.4	52.3	53.7
		短期大学	6.2	5.8	5.9	5.2	4.8	4.3	4.1	4.3	4.1	3.0
専門学校		19.0	18.2	16.7	18.0	17.5	18.0	18.3	16.6	16.3	16.9	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
 ・卒業者数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）
 ・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
 ・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）
 ※専門学校=専修学校専門課程

【資料6】滋賀県の大学の定員充足状況

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
滋賀大学	経済学部	1.08	1.08	1.09
	データサイエンス学部			
	教育学部			
滋賀医科大学	医学部	1.01	1.03	1.03
滋賀県立大学	環境科学部	1.07	1.06	1.07
	工学部			
	人間文化学部			
	人間看護学部			
成安造形大学	芸術学部	1.12	1.11	1.14
聖泉大学	人間学部	0.77	0.78	0.77
	看護学部			
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部	1.06	1.06	1.06
立命館大学	経済学部	1.06	1.08	1.09
	理工学部	1.03	1.07	1.08
	生命科学部	0.98	0.99	1.03
	薬学部	0.97	1.02	1.02
	スポーツ健康科学部	1.10	1.09	1.10
	食マネジメント学部	0.99	1.04	1.08
龍谷大学	先端理工学部	0.90	0.91	0.96
	社会学部	0.99	1.00	1.02
	農学部	0.98	1.02	1.00
びわこ学院大学	教育福祉学部	0.90	0.85	0.76
長浜バイオ大学	バイオサイエンス学部	0.89	0.81	0.74
滋賀県 充足率		99.41%	100.00%	100.24%

(出典：各大学ホームページ)

(出典：滋賀県教育委員会 県内学校一覧(大学))

【資料7】 競合校の入学志願状況等

競合校

龍谷大学 農学部 生命科学科：入学定員90人

	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
志願者数	1,172	1,583	1,894	1,550
受験者数	1,017	1,386	1,782	1,395
合格者数	644	882	777	768
入学者数	100	112	80	97
入学定員充足率	1.11	1.24	0.89	1.08

(出典：旺文社 大学受験パスナビ)

長浜バイオ大学

バイオサイエンス学部フロンティアバイオサイエンス学科：入学定員118人

	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
志願者数	701	605	719	675
受験者数	666	594	688	649
合格者数	558	449	535	514
入学者数	77	88	84	83
入学定員充足率	0.65	0.75	0.71	0.70

バイオサイエンス学部アニマルバイオサイエンス学科：入学定員50人

	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
志願者数	473	492	518	494
受験者数	444	476	493	471
合格者数	327	292	349	323
入学者数	53	59	55	56
入学定員充足率	1.06	1.18	1.10	1.11

バイオサイエンス学部バイオデータサイエンス学科：入学定員70人

	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
志願者数	408	361	387	385
受験者数	380	351	369	367
合格者数	326	287	299	304
入学者数	31	30	35	32
入学定員充足率	0.44	0.43	0.50	0.46

【資料8】 本学・競合校及び同系統の学科等の初年度納付金

大学名	学部	学科	初年度納付金 (円)	内入学金 (円)
近畿大学	農学部	応用生命化学科	1,712,000	250,000
中部大学	応用生物学部	応用生物化学科	1,673,300	280,000
長浜バイオ大学	バイオ サイエンス学部	フロンティアバイオサイエンス学科 アニマルバイオサイエンス学科 バイオデータサイエンス学科	1,590,000	250,000
龍谷大学	農学部	生命科学科	1,562,600	260,000
京都先端科学大学	バイオ環境学部	応用生命科学科	1,520,000	260,000

(出典：各大学ホームページ)

備考

※初年度納付金の高い順。

※2025年度入試の学費等納入金が対象。

※同系統の学科等については、本学出願時の併願大学アンケートより、併願が多い大学を選定。

【資料9】長浜バイオ大学 就職・進学等の状況（過去3カ年）

2021年度（2022年卒）

学科	卒業者数	進学者数	就職者数	就職希望者数	内定率(%)	求人社数
バイオサイエンス	175	45	109	113	96.5	10,678
アニマルバイオサイエンス	49	26	21	22	95.5	
コンピュータバイオサイエンス	28	3	21	22	95.5	
合 計	252	74	151	157	96.2	10,678

2022年度（2023年卒）

学科	卒業者数	進学者数	就職者数	就職希望者数	内定率(%)	求人社数
フロンティアバイオサイエンス	98	23	70	71	98.6	12,599
メディカルバイオサイエンス	63	22	39	40	97.5	
アニマルバイオサイエンス	53	17	33	33	100.0	
バイオ/コンピュータバイオサイエンス	13	2	7	7	100.0	
合 計	227	64	149	151	98.7	12,599

2023年度（2024年卒）

学科	卒業者数	進学者数	就職者数	就職希望者数	内定率(%)	求人社数
フロンティアバイオサイエンス	110	17	85	87	97.7	14,040
メディカルバイオサイエンス	57	19	34	35	97.1	
アニマルバイオサイエンス	56	19	35	35	100.0	
バイオサイエンス	1	0	1	1	100.0	
合 計	224	55	155	158	98.1	14,040

既設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

バイオサイエンス学部

	都道府県名	人 数	構成比
1	滋賀県	44人	25.3%
2	岐阜県	29人	16.7%
3	大阪府	22人	12.6%
4	京都府	13人	7.5%
5	愛知県	12人	6.9%
	全 体	174人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	滋賀県	99.41%	100.00%	100.24%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	理・工学系	104.35%	101.88%	99.39%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

大学学部学科等名：長浜バイオ大学バイオサイエンス学部フロンティアバイオサイエンス学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		8人	9人	22人	22人	15人	
	延べ人数	志願者数		26人	30人	38人	41人	34人
		受験者数		25人	30人	37人	40人	33人
		合格者数		24人	29人	35人	35人	31人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		3人	2人	1人	3人	2人
	実人数	志願者数		22人	27人	34人	36人	30人
		受験者数		22人	27人	34人	36人	30人
		合格者数		22人	27人	34人	34人	29人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		3人	2人	1人	3人	2人
	入学者数		12人	18人	21人	21人	18人	
	学校推薦型選抜	募集人数	33人	29人	23人	30人	30人	29人
		延べ人数	志願者数	237人	182人	193人	140人	117人
受験者数			237人	176人	186人	136人	114人	170人
合格者数			162人	129人	153人	116人	97人	131人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			10人	5人	3人	6人	3人	5人
実人数		志願者数	94人	78人	73人	58人	50人	71人
		受験者数	94人	77人	73人	57人	50人	70人
		合格者数	79人	68人	68人	55人	47人	63人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	5人	3人	6人	3人	5人
入学者数		36人	33人	24人	22人	17人	26人	
一般選抜		募集人数	61人	62人	65人	53人	46人	57人
		延べ人数	志願者数	788人	616人	374人	350人	431人
	受験者数		763人	582人	346人	344人	405人	488人
	合格者数		459人	386人	299人	239人	312人	339人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		7人	8人	1人	1人	2人	4人
	実人数	志願者数	281人	212人	137人	127人	108人	173人
		受験者数	272人	207人	134人	127人	107人	169人
		合格者数	207人	179人	129人	116人	105人	147人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	8人	1人	1人	2人	4人
	入学者数	64人	31人	29人	36人	34人	39人	
	共通テスト利用入試	募集人数	18人	19人	21人	13人	20人	18人
		延べ人数	志願者数	138人	108人	96人	74人	120人
受験者数			138人	108人	96人	74人	119人	107人
合格者数			89人	89人	69人	56人	84人	77人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			3人	2人	1人	0人	0人	1人
実人数		志願者数	49人	40人	31人	38人	43人	40人
		受験者数	49人	40人	31人	38人	42人	40人
		合格者数	46人	38人	29人	38人	39人	38人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	2人	1人	0人	0人	1人
入学者数		3人	5人	1人	8人	6人	5人	
その他の特別選抜		募集人数	6人	0人	0人	0人	0人	1人
		延べ人数	志願者数	55人	16人	8人	3人	10人
	受験者数		53人	14人	8人	3人	10人	18人
	合格者数		39人	12人	8人	3人	7人	14人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		4人	4人	1人	0人	0人	2人
	実人数	志願者数	49人	16人	8人	3人	10人	17人
		受験者数	47人	14人	8人	3人	10人	16人
		合格者数	38人	12人	8人	3人	7人	14人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	4人	1人	0人	0人	2人
	入学者数	32人	8人	5人	1人	6人	10人	
	合計	募集人数	118人	118人	118人	118人	118人	118人
		延べ人数	志願者数	1218人	948人	701人	605人	719人
受験者数			1191人	905人	666人	594人	688人	809人
合格者数			749人	640人	558人	449人	535人	586人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			24人	22人	8人	8人	8人	14人
実人数		志願者数	473人	368人	276人	260人	247人	325人
		受験者数	462人	360人	273人	259人	245人	320人
		合格者数	370人	319人	261人	246人	232人	286人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	23人	22人	8人	8人	8人	14人
入学者数		135人	89人	77人	88人	84人	95人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	118人	118人	118人	118人	118人	118
入学定員充足率	1.14	0.75	0.65	0.75	0.71	0.80
歩留率	0.18	0.14	0.14	0.20	0.16	0.16

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【5年間の実人数の平均歩留率33%（入学者95人/実合格者286人）】

総合型選抜はR3年度入試から実施。

R2年のその他の特別選抜は、AO入試と外国人留学生入試の合計。

R3年～R6年のその他の特別選抜は、外国人留学生入試。

大学学部学科等名：長浜バイオ大学バイオサイエンス学部アニマルバイオサイエンス学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		6人	6人	14人	14人	10人	
	延べ人数	志願者数		20人	30人	33人	21人	26人
		受験者数		19人	29人	33人	21人	26人
		合格者数		18人	21人	27人	21人	22人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	3人	0人	1人
	実人数	志願者数		18人	26人	28人	18人	23人
		受験者数		18人	25人	28人	18人	22人
		合格者数		17人	21人	26人	18人	21人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	3人	0人	1人
	入学者数		13人	17人	19人	14人	16人	
	学校推薦型選抜	募集人数	12人	10人	10人	12人	12人	11人
		延べ人数	志願者数	197人	135人	146人	96人	100人
受験者数			197人	131人	140人	90人	97人	131人
合格者数			62人	42人	108人	75人	77人	73人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			6人	1人	7人	2人	5人	4人
実人数		志願者数	79人	57人	58人	34人	42人	54人
		受験者数	79人	57人	55人	33人	41人	53人
		合格者数	42人	32人	47人	33人	37人	38人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	1人	7人	2人	5人	4人
入学者数		20人	18人	16人	15人	16人	17人	
一般選抜		募集人数	24人	23人	22人	17人	16人	20人
		延べ人数	志願者数	534人	397人	241人	309人	321人
	受験者数		520人	371人	220人	299人	299人	342人
	合格者数		147人	156人	168人	156人	194人	164人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		3人	7人	1人	2人	1人	3人
	実人数	志願者数	175人	141人	86人	108人	78人	118人
		受験者数	169人	136人	84人	108人	78人	115人
		合格者数	75人	89人	74人	74人	64人	75人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	7人	1人	2人	1人	3人
	入学者数	17人	10人	15人	21人	21人	17人	
	共通テスト利用入試	募集人数	10人	11人	12人	7人	8人	10人
		延べ人数	志願者数	61人	54人	52人	50人	71人
受験者数			61人	54人	52人	50人	71人	58人
合格者数			27人	32人	27人	32人	53人	34人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			1人	0人	0人	1人	2人	1人
実人数		志願者数	21人	17人	12人	14人	25人	18人
		受験者数	21人	17人	12人	14人	25人	18人
		合格者数	15人	11人	11人	13人	23人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	2人	1人
入学者数		4人	1人	2人	3人	3人	3人	
その他の特別選抜		募集人数	4人	0人	0人	0人	0人	1人
		延べ人数	志願者数	38人	8人	4人	4人	5人
	受験者数		35人	8人	3人	4人	5人	11人
	合格者数		21人	8人	3人	2人	4人	8人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		2人	2人	0人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	28人	8人	4人	3人	5人	10人
		受験者数	28人	8人	3人	3人	5人	9人
		合格者数	21人	8人	3人	2人	4人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	2人	0人	0人	0人	1人
	入学者数	16人	4人	3人	1人	1人	5人	
	合計	募集人数	50人	50人	50人	50人	50人	50人
		延べ人数	志願者数	830人	614人	473人	492人	518人
受験者数			813人	583人	444人	476人	493人	562人
合格者数			257人	256人	327人	292人	349人	296人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			12人	10人	8人	8人	8人	9人
実人数		志願者数	303人	241人	186人	187人	168人	217人
		受験者数	297人	236人	179人	186人	167人	213人
		合格者数	153人	157人	156人	148人	146人	152人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	10人	8人	8人	8人	9人
入学者数		57人	46人	53人	59人	55人	54人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	50人	50人	50人	50人	50人	50
入学定員充足率	1.14	0.92	1.06	1.18	1.10	1.08
歩留率	0.22	0.18	0.16	0.20	0.16	0.18

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【5年間の実人数の平均歩留率36%（入学者54人/実合格者286人）】

総合型選抜はR3年度入試から実施。

R2年のその他の特別選抜は、AO入試と外国人留学生入試の合計。

R3年～R6年のその他の特別選抜は、外国人留学生入試。

大学学部学科等名：長浜バイオ大学バイオサイエンス学部バイオデータサイエンス学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		8人	8人	15人	15人	12人	
	延べ人数	志願者数		13人	9人	3人	14人	10人
		受験者数		13人	9人	3人	14人	10人
		合格者数		12人	9人	3人	14人	10人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	2人	1人
	実人数	志願者数		10人	8人	2人	12人	8人
		受験者数		10人	8人	2人	12人	8人
		合格者数		9人	8人	2人	12人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	2人	1人
	入学者数		9人	7人	1人	9人	7人	
	学校推薦型選抜	募集人数	20人	17人	15人	17人	17人	17人
		延べ人数	志願者数	151人	106人	111人	92人	59人
受験者数			151人	100人	105人	88人	57人	100人
合格者数			120人	87人	94人	79人	52人	86人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			3人	5人	0人	0人	2人	2人
実人数		志願者数	62人	48人	46人	34人	28人	44人
		受験者数	62人	47人	45人	33人	28人	43人
		合格者数	59人	46人	43人	32人	28人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	0人	0人	2人	2人
入学者数		19人	16人	9人	9人	11人	13人	
一般選抜		募集人数	38人	38人	39人	31人	27人	35人
		延べ人数	志願者数	469人	411人	243人	224人	265人
	受験者数		454人	386人	221人	218人	250人	306人
	合格者数		368人	315人	191人	172人	196人	248人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		5人	2人	3人	2人	1人	3人
	実人数	志願者数	189人	148人	91人	87人	68人	117人
		受験者数	183人	143人	89人	87人	68人	114人
		合格者数	178人	140人	88人	80人	65人	110人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	2人	3人	2人	1人	3人
	入学者数	43人	20人	15人	15人	11人	21人	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	7人	8人	7人	11人	8人
		延べ人数	志願者数	48人	27人	45人	37人	45人
受験者数			47人	27人	45人	37人	45人	40人
合格者数			27人	19人	32人	29人	34人	28人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	1人	0人	0人
実人数		志願者数	12人	8人	12人	12人	14人	12人
		受験者数	12人	8人	12人	12人	14人	12人
		合格者数	11人	7人	11人	12人	14人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
入学者数		1人	2人	0人	3人	3人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	6人	0人	0人	0人	0人	1人
		延べ人数	志願者数	19人	6人	0人	5人	4人
	受験者数		19人	5人	0人	5人	3人	6人
	合格者数		15人	5人	0人	4人	3人	5人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		1人	1人	0人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	18人	6人	0人	5人	4人	7人
		受験者数	18人	5人	0人	5人	3人	6人
		合格者数	15人	5人	0人	4人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	0人	2人	0人	1人
	入学者数	10人	3人	0人	2人	1人	3人	
	合計	募集人数	70人	70人	70人	70人	70人	70人
		延べ人数	志願者数	687人	563人	408人	361人	387人
受験者数			671人	531人	380人	351人	369人	460人
合格者数			530人	438人	326人	287人	299人	376人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			9人	8人	3人	5人	5人	6人
実人数		志願者数	281人	220人	157人	140人	126人	185人
		受験者数	275人	213人	154人	139人	125人	181人
		合格者数	263人	207人	150人	130人	122人	174人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	8人	3人	5人	5人	6人
入学者数		73人	50人	31人	30人	35人	44人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	70人	70人	70人	70人	70人	70
入学定員充足率	1.04	0.71	0.44	0.43	0.50	0.63
歩留率	0.14	0.11	0.10	0.10	0.12	0.11

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【5年間の実人数の平均歩留率25%（入学者44人/実合格者174人）】

総合型選抜はR3年度入試から実施。

R6年学科名称変更。メディカルバイオサイエンス学科 → バイオデータサイエンス学科。R2～R5はメディカルバイオサイエンス学科の入試結果を集計。

R2年のその他の特別選抜は、AO入試と外国人留学生入試の合計。R3年～R6年のその他の特別選抜は、外国人留学生入試。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：長浜バイオ大学バイオサイエンス学部オープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	355人	415人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、学科紹介、実験体験、個別相談、キャンパスツアーなどを実施。 R5入試対象（R4開催）：計7回開催 (3/21, 5/22, 7/10, 8/7, 8/21, 9/18, 10/10) R6入試対象（R5開催）：計8回開催 (3/26, 5/28, 7/17, 8/6, 8/20, 9/24, 10/22,11/26)
うち受験対象者数(b)	176人	216人	
うち受験者数(c)	120人	131人	
うち入学者数(d)	80人	97人	
(受験率 c/b)	68.2%	60.6%	
(入学率 d/b)	45.5%	44.9%	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 コロナ禍による行動制限が緩和されたことで、今後のオープンキャンパス参加者数は増加すると考えており、R7年度入試対象のオープンキャンパスにおいては、前年比123.6%増の513人の参加実績となっていることや、SNSの活用、高校訪問の強化、進学ガイダンスへの参加など、積極的な広報活動を行っていくことを踏まえ、今後のオープンキャンパス参加者からの入学者数は100名前後になると分析している。

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	イトウ マサエ 伊藤 正恵 <令和5年4月>		医学博士 (神戸大学)		長浜バイオ大学学長 (令和5年4月)